

REVIEW 2019

Broadmedia & Entertainment InterBEE REVIEW 2019

■主催: **JEITA** 一般社団法人 電子情報技術産業協会
■お問い合わせ:
一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA)
〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル5階
電話: (03) 6212-5231 FAX: (03) 6212-5225

www.inter-bee.com

REVIEW 2019



#interbee2019

Table of Contents

Graphic Report	
Topics	02
INTER BEE SPORT	04
INTER BEE IP PAVILION	08
DIGITAL CONTENT EXPO	10
INTER BEE 5G	12
INTER BEE FORUM	14
INTER BEE EXPERIENCE	16
INTER BEE IGNITION	20
INTER BEE CONNECTED	24
INTER BEE CREATIVE	28
Ceremony Report	
Opening Ceremony / Reception Party	32
Exhibition Report	
News Center Pick up-1	34
News Center Pick up-2	36
News Center Pick up-3	38
News Center Pick up-4	40
Exhibit Map	42
Exhibitor List	48
Online Magazine Headline	50
Forum & Event Programs	
INTER BEE FORUM	58
INTER BEE EXPERIENCE	62
INTER BEE IGNITION	63
INTER BEE CONNECTED	64
INTER BEE CREATIVE	66
INTER BEE 5G	66
INTER BEE CREATIVE MEET-UP	67
INTER BEE SPORT	67
ROKE-BENTO Grandprix	67
Results	
Publication and Promotion	68
Visitor Profile	70
Exhibitor Profile	72
Exhibition Outline	73

Photo by : Shigeharu Yoshihara
Akane Inagaki
Toshitaka Nakamura
SHIRO-FILM
Seiji Abe
Katsumi Miyasaka



Broadmedia & Entertainment



多彩なテーマで合計100以上のセッションを展開



4万名を超える来場者数を記録!



スポーツコンテンツをより魅力的にわかりやすく伝える最新技術



IP・5G・AI、実用化が進む新技術導入へ、課題共有と躍進へのステップ



高品位オーディオと世界規模・過去最大の音響体験



進化する映像表現とクリエイティブ環境への対応



過去最多 1,158 社・団体が出展!



INTER BEE **SPORT**

SPORT×TECHNOLOGY×ENTERTAINMENT 新次元のスポーツコンテンツが表現の枠を拡げる

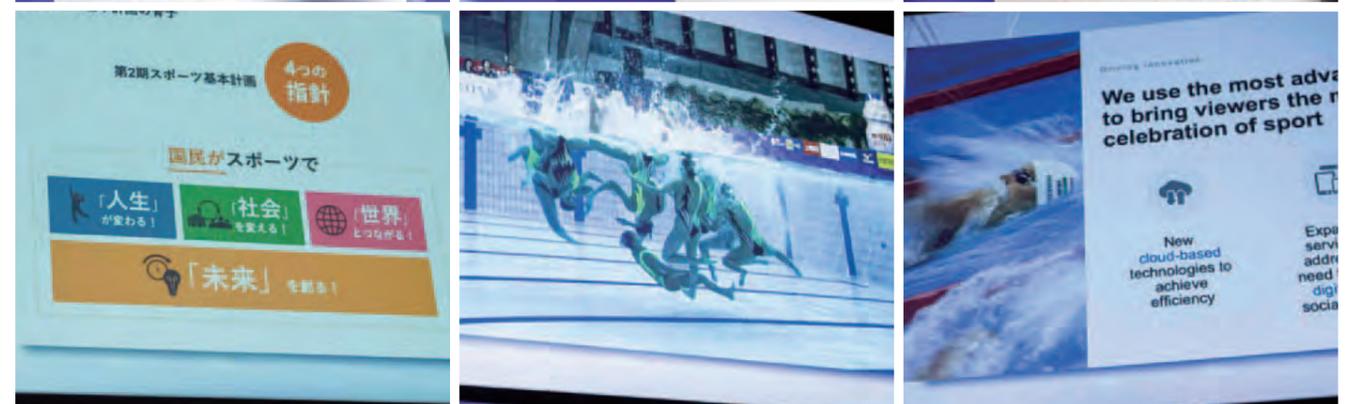


東京2020オリンピック・パラリンピックを来年に控え、今年のInter BEEは「スポーツとスポーツコンテンツ」をテーマとした「INTER BEE SPORT」を新しく特別企画として設置し、基調講演と展示会場で展開した。最強のキラーコンテンツとも言われるスポーツだが、ライブ観戦、放送、インターネットと、そのコンテンツパワーはますます強くなっている。SPORT×TECHNOLOGY×ENTERTAINMENTによる新次元のスポーツコンテンツとは？表現の枠を広げ進化するスポーツコンテンツの、現在とこれからを発信する試みだった。

基調講演会場では、初日のすべてのセッションでスポーツコンテンツをトピックテーマとした。オープニングのキーノートスピーチでは、全米放送事業者協会(NAB)のゴードン・スミス会長、スポーツ庁の鈴木大地長官、NHK放送技術局の緒方一貴局長、オリンピック放送機構(OBS)CTOのソチリス・サラモリス氏と内外からの多彩なゲストにより、それぞれの立場からスポーツとコンテンツのこれからや取り組みが語られた。

午後からのINTER BEE CONNECTED基調講演は放送メディアにおける「スポーツ中継のフィロソフィー」、それに続く基調講演2では放送以外の様々なステージからこれからのスポーツコンテンツを捉える「デジタルテクノロジーでさらに輝くこれからのスポーツ」と、セッションごとに多角的なアプローチが展開。国際会議室の特別講演2日目では、世界でスポーツコンテンツ制作をサポートするSVGに加え、OBS、NHK、キヤノン株式会社による「スポーツ映像制作の最新技術」のセッションも行われた。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 7
Area:	228sqm
The Theme of Keynote Speech:	Toward to 2020
The Number of Sessions:	4 Session
The Number of Speakers:	21 speakers
The Number of Audiences:	1427 audiences (Total)
The Number of Exhibitors:	10 exhibitors





Inter BEE開催の10日余りに終了したラグビーワールドカップ2019日本大会。日本のラグビー史上空前の盛り上がりを見せたこの大会だが、コンテンツという視点から振り返ると、制作・配信における様々な最新のアプローチ、そしてエンターテインメントとしても優れたパワーをアピールするものだった。

INTER BEE CONNECTED基調講演は、そんな熱気冷めやらぬラグビーワールドカップを題材として取り上げながら、あえてスポーツコンテンツ制作のフィロソフィーにスポットを当て、さらに来年のオリンピック・パラリンピックを考えるという、新鮮なアプローチのセッションとなった。



Inter BEEにとって初めての試みとなった、特定のコンテンツカテゴリーをテーマに実施された特別企画展示「INTER BEE SPORT」。スポーツコンテンツの制作や配信において、その進化・変革をもたらすテクノロジーやサービスを発信し、今後の新たなビジネス創出や市場拡大にアプローチすべく展開された会場には、10社のブースが参加し多くの来場者を集めた。
ライブイベントでは、世界大会3連覇のプロダブルダッチチーム「REGSTYLE」がアクロバティックなパフォーマンスを行うなど、会場を盛り上げた。



INTER BEE IP PAVILION

IP実機接続デモと4K/HD対応フルIP中継車の展示 基調講演や具体的な事例報告から見えてきた「将来への道筋」



IP化は撮影段階から送りまでトータルで構築することで最大限の効率化が可能ということもあり、日本でも徐々にそうした方向に向かっている。

そうした中で、実用事例が多くなってきたIP化の動向を紹介する「INTER BEE IP PAVILION」では、26社/団体が参加し「IP実機接続デモ」を実施した。

今回の実機デモは、「SMPT E ST 2110 (Video・Audio)」「SMPT E ST 2110-30+DANTE (Audio)」「SMPT E ST 2022-6」の3つのテーマで実施。多くの来場者が、IPライブ伝送制作技術のデモを通じてインターネットオペラビリティの世界を体感した。

隣接ブースでは奈良テレビ放送の4K/HD対応フルIP中継車を展示。内部は自由に見学できるようになっており、IPになっても従来の中継車と同様な運用が可能とのこと。国内初のIPライブ伝送技術を活用した4K/HD対応オールIP中継車で、HDシステムにもNMIを採用することで、SDIルーティングスイッチャーのない映像システムを実現したほか音声もIPを採用している。

また、INTER BEE IP PAVILION内で開催したリレー技術セミナーでは、各社のIPライブ伝送や関連技術に関する取り組みや紹介とともに、初めての試みとしてNHK及びNHK放送技術研究所より、IPネットワークの基礎、IP番組制作システムの監視、ST 2110相互接続検証に関するプレゼンテーション、さらに導入事例としてスカパーJSAT、奈良テレビ放送からプレゼンテーションを実施。多くの来場者がその動向に耳を傾けた。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 3
Area:	270 sqm
The Number of Participant Companies	
SMPT E ST 2110 (Video・Audio) Interoperability:	14 Companies
SMPT E ST 2110-30+DANTE (Audio) Interoperability:	4 Companies
SMPT E ST 2022-6 Interoperability:	5 Companies
Sponsorship / Cooperation 1Alliance / 2 Companies	
The Theme of Keynote Speech:	
IP-based Broadcasting Technology and Introduction Examples	
The Number of Sessions:	26 sessions
The Number of Audiences:	1,554 Audiences (Total)



11月15日(金)には、INTER BEE FORUM 基調講演「IP化する放送技術と導入事例」を開催。「Inter BEE FORUM」屈指の注目セッションとなったIP関連のテーマでは、すでに突入した放送のIP化時代において、各放送局はどのようにIP技術を活用しているのか。フジテレビジョン、テレビ東京、NTTがらら、AbemaTV、北海道文化放送、共同テレビジョンよりキーパーソンを迎え、IP導入へ向けた今後の考え方、導入事例など最新の取り組みを紹介した。500名定員の会場に800人を超える聴講者が集まり、急速サテライト会場を設けるという大注目のセッションとなった。IPへの関心はあるものの漠然とした不安を抱えながらのトライが続く現状を解消するためには、まずは事例を増やして課題共有する場が今後も極めて重要となりそうだ。



同時開催 **DCEXPO** デジタルコンテンツEXPO 2019

日本と世界のデジタルコンテンツ最前線 クリエイターを刺激する先端コンテンツテクノロジーが集合



今年も同時開催された「デジタルコンテンツEXPO(DCEXPO)」。日本のコンテンツ技術力を強化、ビジネス化の契機となることを目的に昨年からInter BEEと同時開催され、2回目となる今回もデジタルコンテンツ関連のクリエイターをはじめ、若手映像クリエイターやコンテンツ開発分野の関係者など、多くの来場者を集めた。

DCEXPO会場のメインとなる、先端デジタルコンテンツ技術とデジタルコンテンツをテーマに設置されたContent & Technology Showcase(CTS)には、約40社が展示を行った。イノベーションによるコンテンツ産業発展への貢献が期待される技術やコンテンツを発掘・発信するInnovative Technologies 2019には、採択された8つの優れたテクノロジーが紹介され、また世界最大のCGとインタラクティブ技術の国際会議SIGGRAPHより優秀な技術が紹介される等、AI、VR、MR、触覚や味覚など多彩な領域からクリエイターを刺激する展示となっていた。また、経済産業省が進める「新コンテンツ創造環境整備事業(コンテンツ関連ビジネスマッチング事業)」の一環として、公募の中から選定された6件のユニークな展示・デモとビジネスマッチングやピッチ、

ワークショップが行われるなど、会場全体を通じて盛りだくさんの内容となった。

一方コンファレンスは、DCEXPO会場内のDCEXPOステージをはじめとして、開催初日の国際会議場・INTER BEE FORUM内での3セッション、2日目のINTER BEE IGNITIONステージでの連携企画2セッションと、こちらも多彩に展開された。国際会議場でのDCEXPO基調講演では、ロンドン大学シニアリサーチフェローの石津智大氏と早稲田大学教授の河合隆史氏により「神経美学と対話するデジタルコンテンツの未来」と題して、神経美学からデジタルコンテンツとメディアコミュニケーションの可能性にアプローチする、新鮮な視点の講演が行われた。また、「ASIAGRAPH2019 創賞・匠賞」の授賞式とトークセッションをはじめ、CG/VFXによる映像表現をテーマとしたセッションが行われ、INTER BEE IGNITIONステージではFacebook社でVR/AR研究をリードするDanielle Belko氏と東京大学教授の廣瀬通孝氏による日米VR最新研究紹介やバーチャルVTuber東雲めぐトークショーと、デジタルコンテンツの最前線から幅広くテーマが採り上げられ、それぞれに熱心な聴講者を集めていた。



INTER BEE ((5G))

メディアとエンターテインメント分野での5Gの可能性とは 商用サービス開始に向け期待が膨らむ



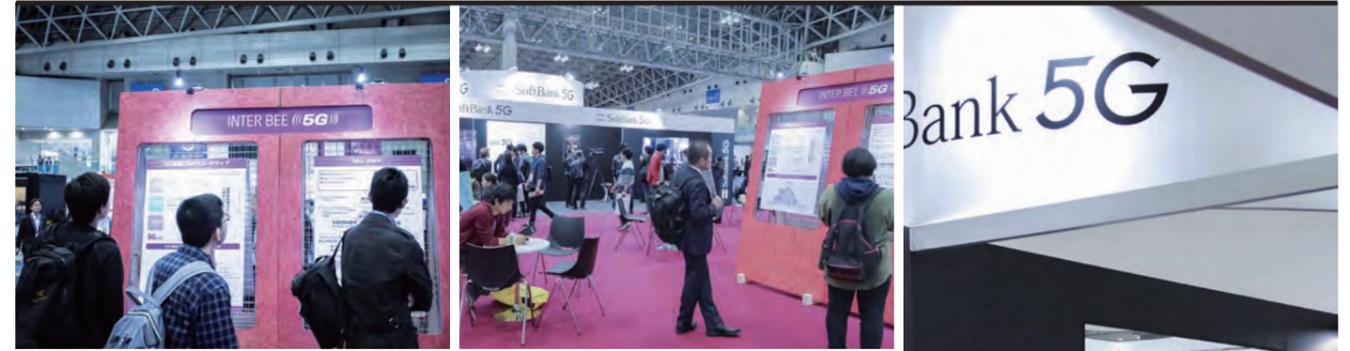
2020年に5Gの商用サービスが開始される。すでにプレサービスも開始され、いよいよ本格的な活用の準備段階に入った。5Gは様々なビジネスシーンでの利用が想定されているが、もちろんメディアとエンターテインメント分野、特にリッチコンテンツである4K8K映像の制作・編集・伝送においては、多様な領域での活用が期待されている。

今回2回目となる特別企画「INTER BEE 5G」にはソフトバンク株式会社が参加し、初の試みとして5G基地局の展示を行った。実際に無線局としての免許も取得し、300~400mほどの通信範囲で実験用の5G通信を行うという本格的なものだ。

一方、基調講演会場では、2日目に「5Gセッション2019」が行われた。今回で3回目となる5Gセッションだが、今年は株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社の5Gキャリア4社から技術推進を行うキーマンが揃って講演を実施。各社が目指す5Gとその可能性、将来への展望が語られた。

そのほか、出展各社のブースでも5Gの活用に具体的にアプローチする展示が見られるなど、メディアとエンターテインメント関連産業において、そしてInter BEEにとっても来年以降に大いに期待が膨らむテーマとなった。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 8
Area:	180sqm
The Theme of Keynote Speech:	5G Session 2019
The Number of Speakers:	4 speakers
The Number of Audiences:	709 audiences



「INTER BEE 5G」のソフトバンクブースでは、4K撮影された映像内の人物にリアルタイムでボカシを入れるシステムを展示。ブース内の基地局から実際に伝送して処理し、リアルタイム表示するデモなど、高解像度映像における5G活用がアピールされた。

また、INTER BEE 5G会場以外でも、株式会社NHKテクノロジーズは、楽天モバイルの回線を使って8Kライブ映像を5Gネットワークで伝送し、クラウドから再度5Gネットワーク経由でブース内の端末に配信するデモを行うなど、映像分野におけるより具体的な5G活用が提案された。



INTER BEE FORUM

期待されるコンテンツの進化、そしてその先にあるものは
 広がるメディア環境のなかで2020年代を探る



今回のINTER BEE FORUMはどのセッションも大変盛況だった。国際会議場で行われたセッション数は36。展示ホールの各特別企画も加えると合計100以上ものセッションが実施され、そのどの会場にも熱心な聴講者が詰めかけた。

最多の聴講者を集めたのが、基調講演会場の2日目の「テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向」。総務省情報通信作品振興課課長・三島由佳氏により、放送コンテンツのネット配信と視聴データ活用をテーマとした講演が行われ、続くパネル講演では、6年目のハイブリッドキャストの課題と共に、OTTサービスとの競合、ローカル局とマネタイズ、ネットインフラ課題と5Gへの期待、視聴データのビジネス活用など、放送とネット連携を考える諸課題と今後の展望についての講演と議論が行われた。

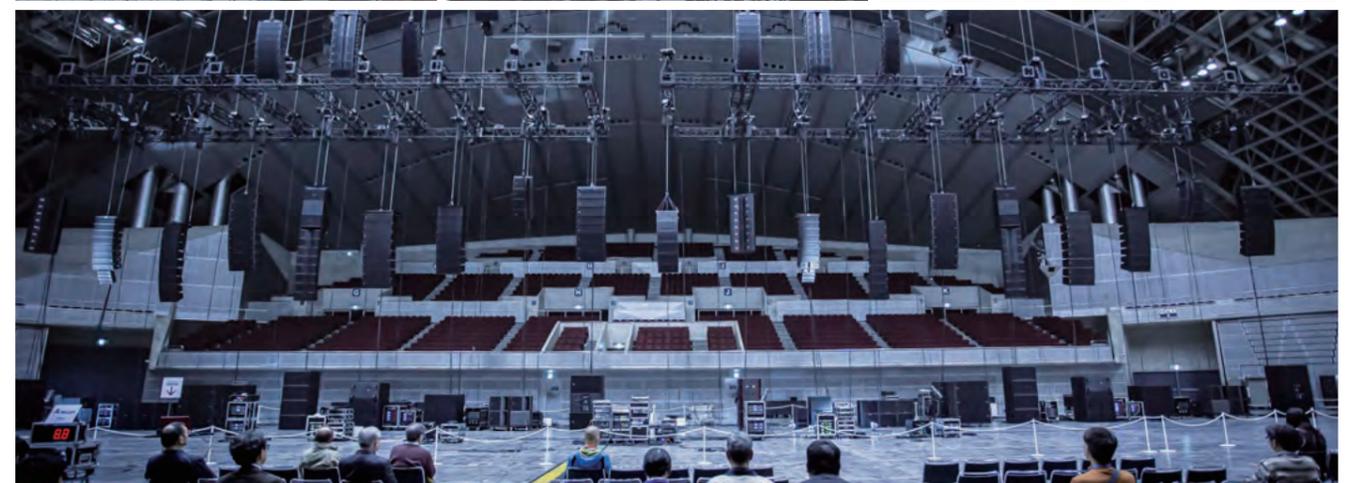
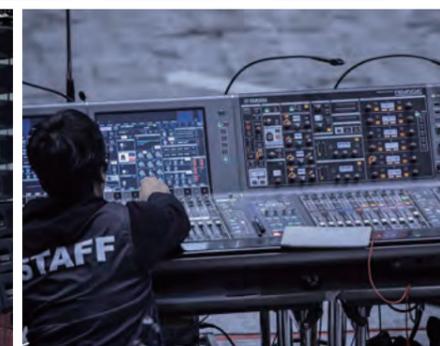
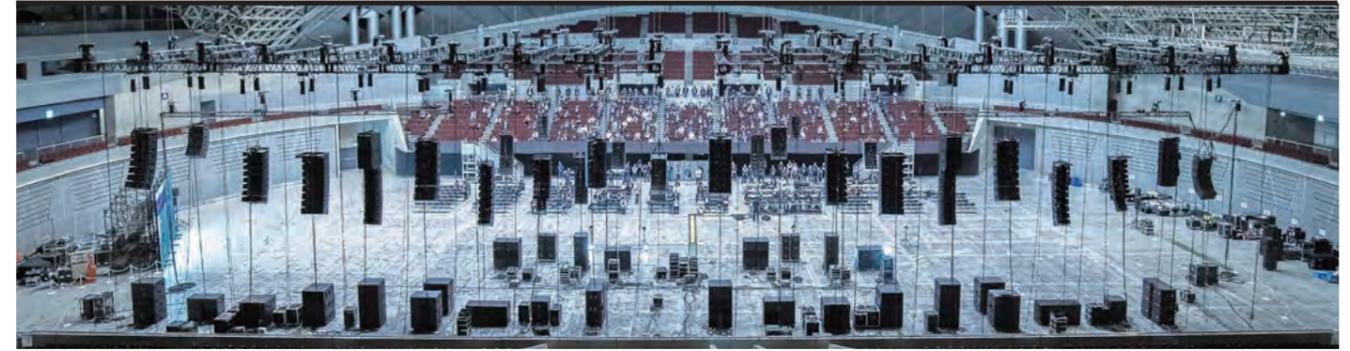
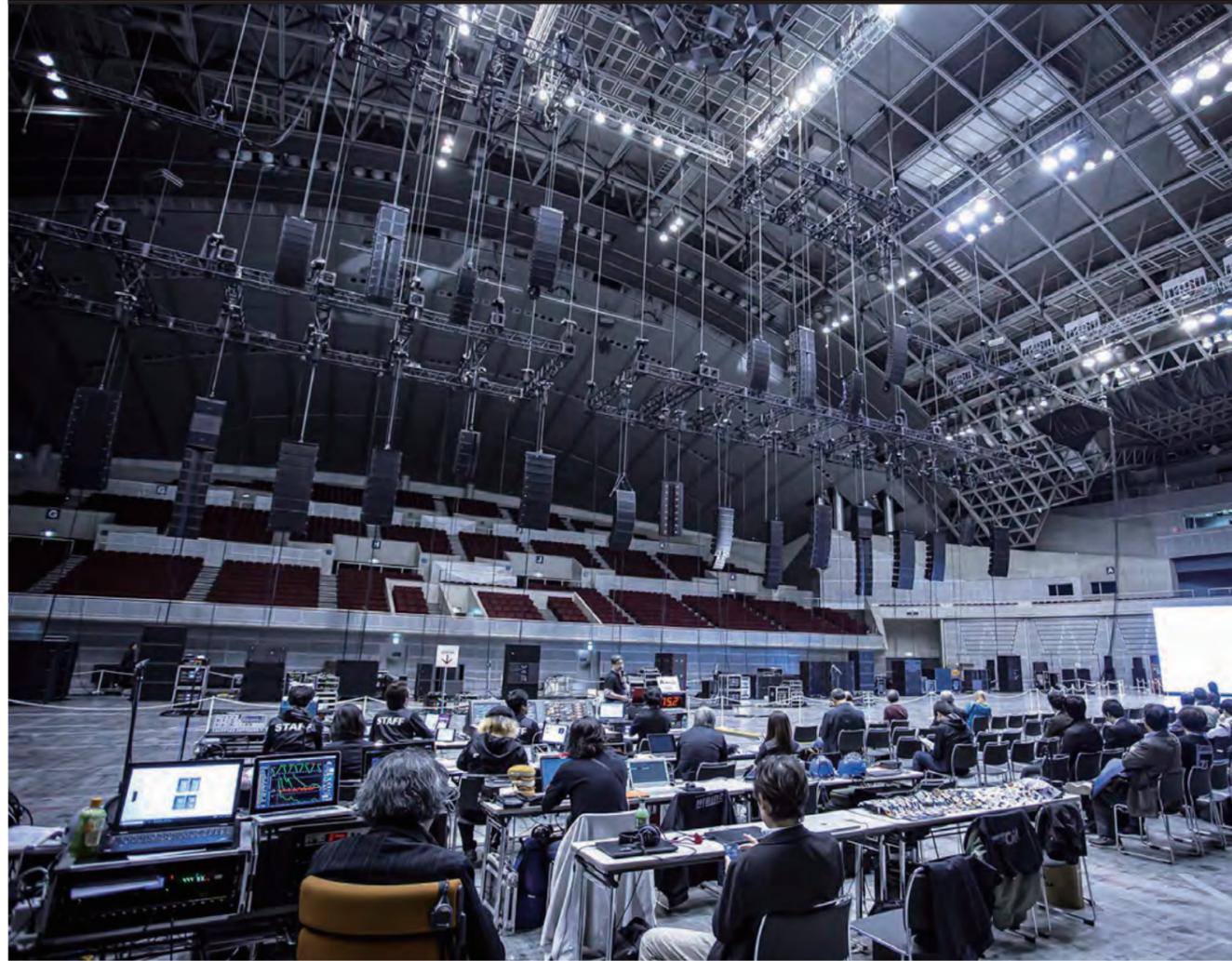
特別講演ではネット連携により新たなステージに挑む「待ったなしのラジオ経営」、テクニカルセッションでは映像コンテンツ制作のキーとなる「4K/HDRと2K/SDRの相互変換と運用を徹底討論」、音声制作の最前線を発信する「最新の音声技術と次世代の音声制作」とリクエスト形式を試みた「ライブサウンドエンジニアのためのオールリクエスト!」、また「緊急企画：災害とメディア2019」など、多くの聴講者を集めるセッションが続いた。注目キーワードは、スポーツをはじめAI、5G、IP化、4K8Kコンテンツ制作、ラジオなど。進化・拡張するメディア環境のなかで、これからのコンテンツをどう創造し提供していくのか。どのセッションでも2020年代のメディアとコンテンツを探る熱い視線が注がれていた。

Date:	Nov. 13-15
Place:	International Conference Hall
Area:	1,947 sqm (5 Rooms)
The Number of Sessions:	36 sessions
The Number of Speakers:	138 speakers
The Number of Audiences:	8,598 audiences (Total)



INTER BEE EXPERIENCE X-Speaker

名実ともにワールドクラスに
過去最大の内外著名15ブランド18製品のスピーカーを体験



今年のINTER BEE EXPERIENCE: X-Speaker(SRスピーカー体験デモ)は、15ブランド18製品のSRスピーカーが参加し過去最大規模の開催となった。特に国内外の著名ブランドのSRスピーカーがこれだけ顔を揃え、大空間の会場で大音量の試聴体験ができるのは世界でも大変珍しく貴重な機会であり、まさにInter BEEならではのワールドクラスの試聴イベントと言えるだろう。

今回特徴的だったのは、ポイントソーススピーカーが4製品も参加したことだ。ラインアレイスピーカーと比べ、小規模空間専用のスピーカーとされるポイントソースだが、近年その進化は著しい。音質の高さ、そして想像以上の音圧に、それぞれ圧倒させられる競演となった。

小型4製品、中・大型10製品のラインアレイスピーカーは、今年も全製品が会場の天井から下げられたトラスに吊るされるフライング設置となり、その偉容に圧倒される。初参加や再登場のブランドもあり、3日間を通じてそれぞれの個性や特長を遺憾なく発揮された。

このイベントへは毎年多くの来場者が訪れるが、今年はユニークユーザ数で約4,400人、延べでは約6,600人も来場者数となった。Inter BEE全体でも音響関係への関心が大変高くなっているが、それを象徴するのがこのX-Speakerとも言えるだろう。ライブエンターテインメント市場の比重が年々高まるなか、世界の一流のライブサウンドを担うSRスピーカーが集結する年に1度の機会、INTER BEE EXPERIENCE: X-Speakerへの注目は続いている。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Event Hall
Area:	3,098 sqm (Arena)
The Number of Products Brands:	15 brands, 18 Products
The Number of Presentations:	36 presentations
The Number of Audiences:	6,601 audiences (Total)

INTER BEE EXPERIENCE X-Headphone | X-Microphone

今年も盛況となったヘッドホン／マイクロフォンの試聴体験
多くの若手クリエイターや学生たちで賑わう場に



今回で4回目の実施となったINTER BEE EXPERIENCE : X-Headphone X-Microphone(ヘッドホン・マイクロフォン試聴体験展示)。自由に気軽にプロユースのヘッドホン／マイクロフォンを試聴体験できる場として、Inter BEEにすっかり定着した。展示ホール1に設置された会場には今年も多くの来場者が集まり、3日間で過去最高の延べ5,000人以上の来場となった。

例年この会場にはPA関係者や放送局関係者をはじめとして、音響・音声制作に関わる多くのプロユースが、新製品やまだ使用したことのない機材を体験するために訪れるが、今回特に目立ったのは、若手クリエイターや学生たちなどの若者層が増えて来たことだ。昨年から同時開催されているデジタルコンテンツEXPOの効果や、またビデオグラファーなどひとりで映像と音響・音声制作を行う若手クリエイターたちの増加などもあり、高品質のヘッドホンとマイクロフォンが実際に体験できる場の有用性は高くなっている。もちろん、次世代の音響制作に携わるため学ぶ学生達にとっても絶好の機会だ。

ネット上で年々増える動画コンテンツや今後の5Gの実用化を睨んで、質と量ともに映像・動画制作へのニーズが高まるなか、視聴者の感性に響く音響・音声制作の重要性が言われている。またライブエンターテインメント分野では、その隆盛とともに音響への関心があらためて高まり、制作品質も次のステップへと進んでいる。それら次世代のコンテンツ制作を担うクリエイターたちを体験的に支援する場としても、X-Headphone X-Microphoneが大切な空間になっていることを実感させる開催となった。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 1
Area:	338 sqm
The Number of Products Brands:	Headphones 8 brands Microphones 11 brands
The Number of Visitors:	5,038 audiences (Total)



INTER BEE IGNITION

メディアはどのように拡張して行くのか
すべてがメディア化する時代を予見する3日間

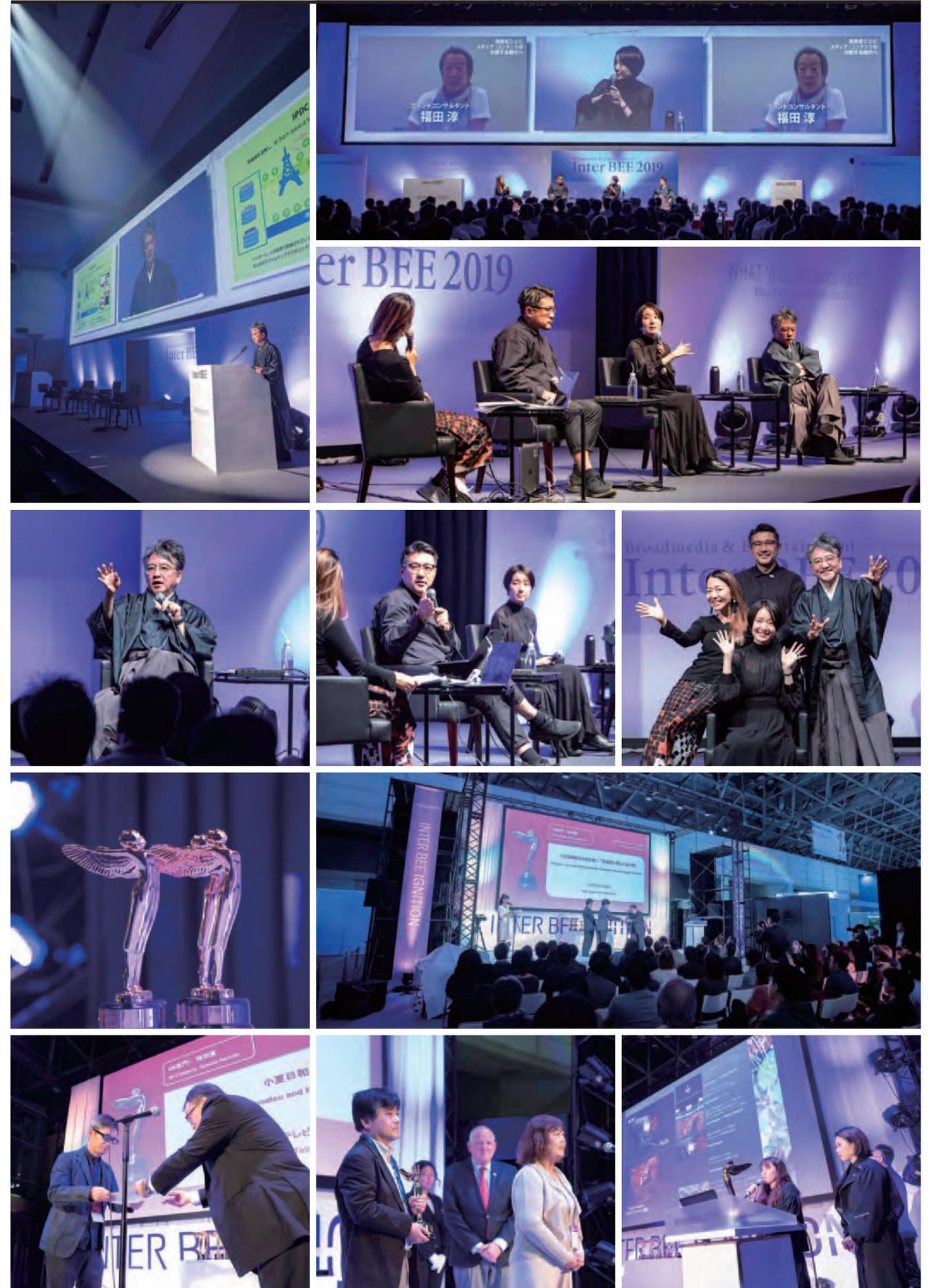


旧来の放送メディアとは異なる映像表現の世界を積極的にテーマとすることで、Inter BEE のもうひとつの方向性を切り拓く試みとして始まった INTER BEE IGNITION。IGNITION=発火点というその名が示すように、4年目となる今回は「拡張するメディアは映像に留まらない」という、Inter BEE にとっては挑戦的な全体テーマにより展開された。

開催2日目に国際会議場で行われた INTER BEE IGNITION 基調講演では、「映像の外側で、すべてがメディア化する時代のアクティビスト達」のタイトルのもと、デジタルメディアに関わる様々なプロジェクトを牽引する中村伊知哉氏の講演に続き、ゲストパネリストにビデオコメンテーターも交えたパネルディスカッションが行われた。

INTER BEE IGNITION の会場では、拡張するメディアの発火点として「教育」「ナイトライフ」「都市」「モビリティ」そして「ニッチ・メディア」の5つの切り口を設定。多様な分野や立場からのゲストパネリストを迎え、それぞれのシーンがメディア化することによって生活者や社会そしてデジタルメディア産業はどのように変化し、どう進化するのかについての活発な議論が交わされた。

そのほか、恒例となった先進映像協会の「ルミエール・ジャパン・アワード2019」表彰式、昨年から同時開催のデジタルコンテンツEXPOとの連携企画としての、日米最新VR研究のセッションや3DCG パーチャルVTuber 東雲めぐトークショーなど、全体テーマにふさわしく留まるところのない多様な発信が行われた。



Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 6
Area:	558sqm
The Theme of Keynote Speech:	Activists in the Era in Which Everything Outside of Film is Made into Media
Capacity of main stage:	110 seats
The Number of Sessions:	12 sessions
The Number of Speakers:	40 speakers
The Number of Audiences:	1,331 Audiences (Total)
The Number of Exhibitors:	8 exhibitors



今回、初日の閉場後に行われた「オープニング・パーティー」Beer bash「Inter BEE IGNITION仕掛人が語るメディア論」。Inter BEE開催まで議論を重ねて来たアドバイザーボードメンバーが、ドリンク片手の自由な雰囲気の中で、拡張するメディアについての思いや考えを語る初めての試みだ。

このセッションとその前のナイトライフセッションは、パネリストとして登壇した宇川直宏氏が主宰するライブストリーミングサイト「DOMMUNE」を通じてライブ配信され、同日で14,000を超えるビューア数となった。



Inter BEEのすべての会場のなかで最もユニークな展示を見ることができるのが、このINTER BEE IGNITIONの展示エリアだ。今回も新しい映像表現や映像コミュニケーションをテーマとしたブースが展開され、多くの来場者が興味深く体験していた。

ステージ上のセッションとともに展示エリアも同じくIGNITION=発火点であり、様ざまに拡張して行くメディア環境のなかで、新たな発想のもとでテクノロジーとコンテンツが生み出すユニークな変革やビジネスを探る場として今後も期待される。



INTER BEE CONNECTED

メディア環境が大きく変化をとげたこれまでの5年間
放送・映像メディアのこれからの5年を熱く発信

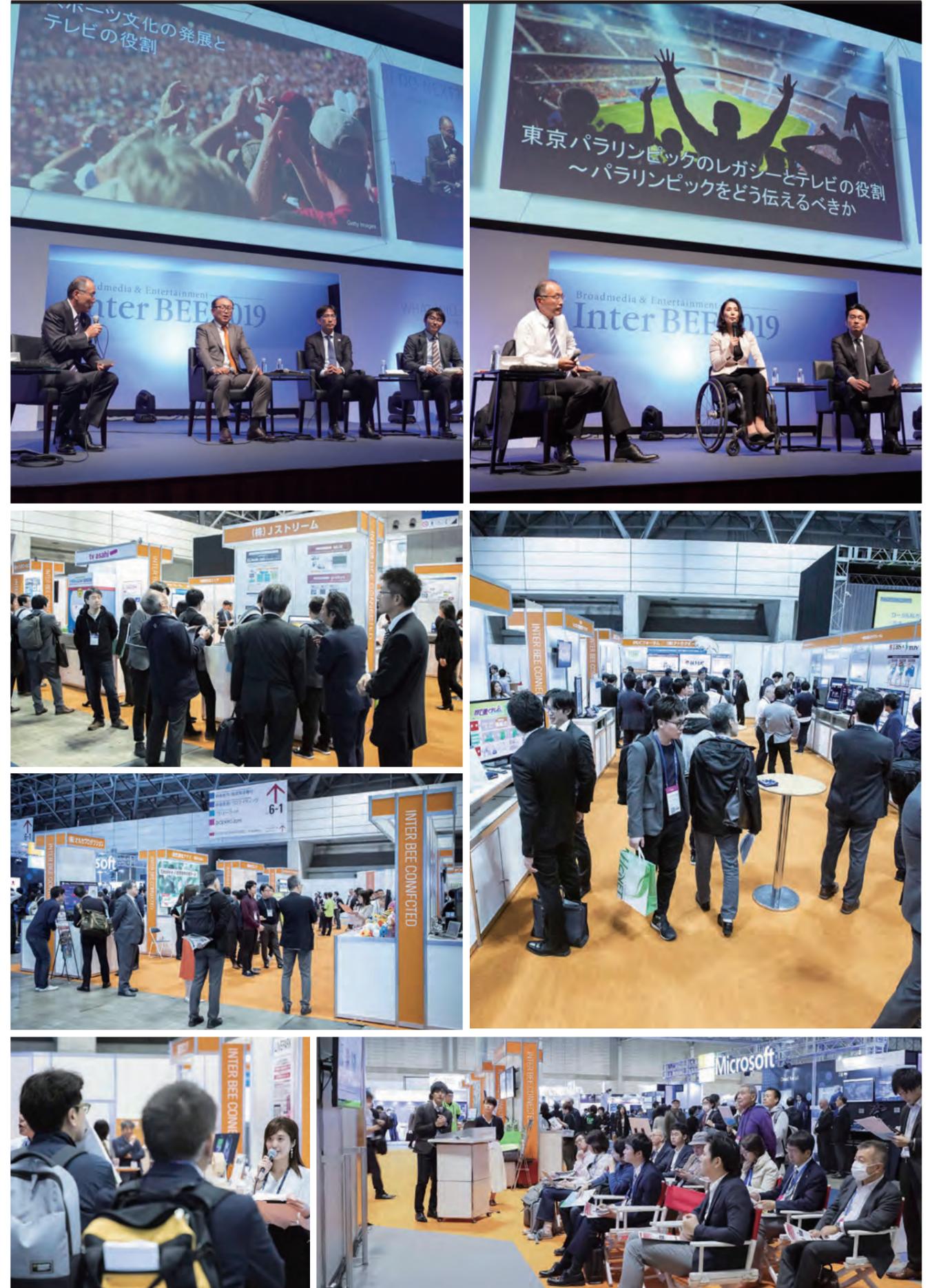


INTER BEE CONNECTEDが特別企画として開催されて今年で6年目。この間に、テレビをはじめとした放送とメディアの環境は大きく変化してきた。INTER BEE CONNECTEDとしてもひとつの節目を迎えた今年、会場はこれからの5年間を捉え考える場として、連日熱いセッションが続いた。

国際会議場で行われた今年の基調講演、初日セッションはすべて「スポーツコンテンツ」をトピックテーマとした。午後からのINTER BEE CONNECTED基調講演は「スポーツ中継のフィロソフィー ~TOKYO 2020に向けて」。スポーツ中継の番組づくりで多くの成果をあげられた株式会社WOWOWの中田晃社長を進行役に迎え、プロ野球、ラグビーワールドカップ、そして東京パラリンピックと盛りだくさんのテーマ、多彩なゲストにより、スポーツにおいてテレビがつくるコンテンツの役割を発信するセッションが行われた。

一方、INTER BEE CONNECTED会場は、オープニングとなる「視聴データが想像するテレビ広告の10年後」から連日、大盛況のセッションが続いた。特に、初日の「若年層のカジュアルな動画視聴」、2日目の「GYAOとAbemaTVに聞く映像メディアの次のステップ」「キー局攻めのメディア戦略」、最終日の「ローカル局の放送外ビジネス2.0」の各セッションは、200席の定員を大きく上回る300名以上の聴講者を集めた。放送と映像メディアが今後どう変化・進化し、どのような戦略やビジネスを行うべきなのか。それぞれ異なった視点・テーマから今後を考えるセッションに、より大きな関心が集まったと言えるだろう。

Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 7
Area:	588 sqm
The Theme of Keynote Speech:	Sports broadcast philosophy -Toward to Tokyo 2020
Capacity of main stage:	200 seats
The Number of Sessions:	13 sessions
The Number of Speakers:	55 speakers
The Number of Audiences:	3,559 audiences (Total)
The Number of Exhibitor's Presentation:	17 sessions
The Number of Exhibitors:	16 exhibitors





視聴データが想像するテレビ広告の10年後



若年層のカジュアル動画視聴
~その実態から探る今後の動画サービスへのヒント~

3日間で延べ3,000人を超える、過去最高の聴講者を集めた今回のINTER BEE CONNECTED。初日の定番テーマとなった視聴データをはじめとして、変化する視聴者や消費行動、ネット映像メディアやSNS、そして5Gと、メディアコミュニケーションの大きな環境変化が続くなかで、キー局や番組制作はもとより地域メディア、広告はどう進化すべきなのか。変化への取組みを現在進行形で捉え考えるとのセッションにも、多くの聴講者が集まり熱い視線が注がれていた。



データで解明する！
スポーツ番組の視聴の“質”&“価値”の最新動向？



消費行動の変化に広告主はどう対応し、
テレビ業界は何をすべきか？



GYAO と AbemaTV に聞く
映像メディアの次のステップ



キー局攻めのメディア戦略



ネットが盛り上がりげれば何が起る？
番組制作と SNS 活用



After Hours !
~テレビは本当に生き残れるか!?
テレビはようになる? テレビをどうする?~



5G が放送ビジネスに与えるインパクト



①トライアングル
②パートナーシップ

ローカル放送局ビジネス 2.0
~放送 × 地域のトライアングル~

昨年に続き2回目となる「After Hours !」。今年は「テレビは本当に生き残れるか!? テレビはようになる? テレビをどうする?」をテーマに、2日目の閉場後に行われた。この試みは参加者が丸テーブルを囲み、ドリンク片手にステージ上との垣根を超えて語り合うというもの。刺激的な今年のテーマ設定に、テレビ局関係者を筆頭として他業種でもテレビの今後に大きな関心を持つ多くの来場者が集まり、積極的に意見が交わされるタベとなった。また、クロージングは、アドバイザーボードメンバーによる「これまでの5年これからの5年」を語るラップアップ・セッションで、6年目の節目を熱く過ごした3日間が終了した。



放送コンテンツの海外展開
次の一手は配信か？



INTER BEE CONNECTED Wrap UP
トークセッション~これまでの5年これからの5年~



INTER BEE CREATIVE

日本とハリウッドの映像クリエイターが多彩に登壇
テクノロジーのみならず感性を刺激する、熱いセッションが展開



今年のINTER BEE CREATIVEは、日本のコンテンツパワーの実力とは？進化著しい若手クリエイターたちはどこを目指すのか？そんな問いかけをするように、さまざまな角度からセッションが行われた。その問いかけに応えるように、3日間のセッションでは例年以上に多くの熱心な聴講者を集めることとなった。

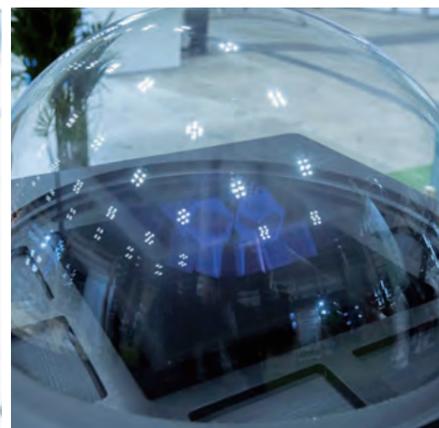
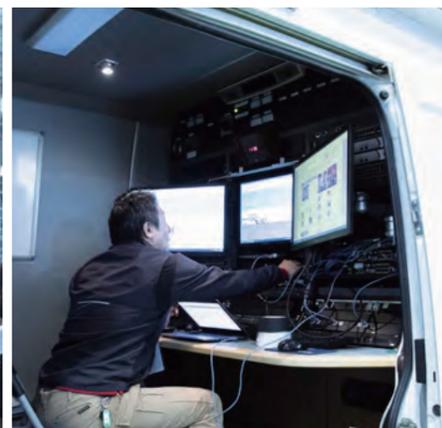
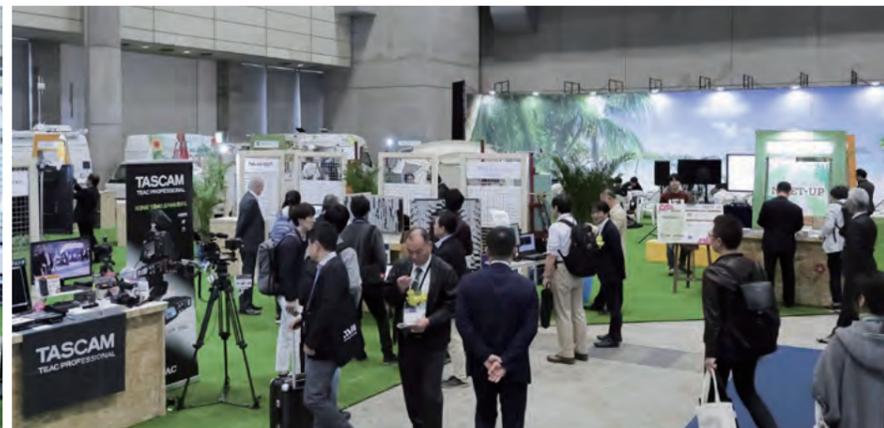
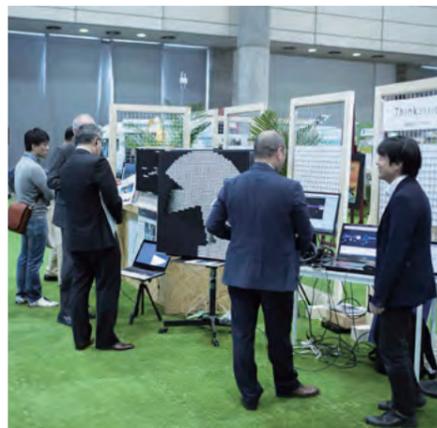
開催3日目、国際会議場・基調講演会場の最終を飾るINTER BEE CREATIVE基調講演では、アジア映画界との積極的な交流を進める映画監督の行定勲氏が登壇。「日本のクリエイターよ、越境せよ！」と題し、自らが辿った道程や中国での撮影の苦労話も交え、日本の映像クリエイターが海外に進出するために何がかなど、対談形式で熱く語られた。

展示会場のオープニングでは、日本とハリウッドのコンテンツパワーの現在を伝えるセッションが3日間を通じて展開。日本からは大河ドラマ史上初の4K制作が行われた「いだてん」の技術制作者が登壇し、最新のVFX技術をはじめその挑戦が紹介された。一方でハリウッドからは、今年夏に公開され話題となった実写版「ライオン・キング」のVFXスーパーバイザーであるエリオット・ニューマン氏が来日し、14・15日と2日間に渡って「ザ・メイキング・オブ・ライオン・キング」のセッションが行われた。また、多くの映画監督・映像作家や技術クリエイターたちが登壇し、最新の技術動向紹介や若手クリエイターを刺激する多彩なセッションが行われた。展示エリアでは、映像制作・ポストプロ関係やクリエイター派遣会社のブースが展開。INTER BEE CREATIVE MEET-UPでは、ワークショップやハンズオンの体験も行なわれた。



Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 8
Area:	481sqm
The Theme of Keynote Speech:	Calling All Japanese Creators! Step into a New World!
Capacity of main stage:	102 seats
The Number of Sessions:	16 sessions
The Number of Speakers:	24 speakers
The Number of Audiences:	2,066 Audiences (Total)
The Number of Exhibitors:	7 exhibitors

CREATIVE MEET-UP	
Date:	Nov. 13-15
Place:	Exhibition Hall 8
Area:	557sqm
The Number of Participant Companies:	16 companies



INTER BEE CREATIVE MEET-UP

今年で3回目となる、もうひとつの特別企画INTER BEE CREATIVE MEET-UP。このエリアが目指すものは、これまでの展示会にはなかった、ユーザが専門分野やプロ・アマの垣根を超えて肩肘張らずに集まり、体験・交流しネットワークづくりのできる場を創ること。そして、新たな発想や取組みに挑戦する後押しを行い、それへの刺激を触発する展示や空間を創ることだ。特にInter BEEにおいては、コンテンツ制作の次代を担う多様なクリエイターたちが集まる場所づくりが重要になっている。

その点では、3日間を通じて実施されたワークショップは連日多くの参加者を集め、大変盛況となった。セッション内容も映像制作技術の最前線からWeb動画のマーケティング、効果測定までと、これまで以上にビデオグラファーをはじめとした若手コンテンツクリエイターの意欲を刺激するものとなっていた。



過去最高の1,158社/団体が出展 メディア総合イベントInter BEE 2019 開幕!!



開催初日の11月13日(水)午前10時より幕張メッセ 国際会議場、コンベンションホールAにおいて、Opening & Keynoteが開催された。会場では「Keynote Speech: Toward 2020」の各講演に先立ってOpening Sessionが開催され、Inter BEE 2019の開幕が高らかに宣言された。

「コンテンツを中核に心の豊かさをもたらすユーザー体験の実現を」

世界中で急速な技術革新に伴うデジタル化、データ社会化が進み、社会が大きく変わろうとしている中、JEITAは日本が目指す超スマート社会(Society 5.0)に向け、さまざまな産業と連携し社会活動の解決につなげる変革に取り組んでいる。Inter BEEにおいては、コンテンツを中心に、人々に心の豊かさをもたらすユーザー体験を実現する、『つくる』『おくる』『うける』を網羅するメディア総合イベントとして、大きな変化をつくりだしていきたい。

いよいよ2020年、来年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。その2020年を見据え、本年の注目テーマはスポーツ。さまざまなスポーツ関連のセッションが用意されているほか、特別展示企画ではINTER BEE SPORTを展開している。今年のInter BEEは、スポーツにおける放送、コンテンツの重要性を知る機会として活用いただきたい。



一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 会長
遠藤 信博



「新しい技術、ビジネスモデルを取り入れ、さまざまな業種が連携して新たな放送・コンテンツを」

今年のInter BEEでは4K8K、放送とネットの連携、5Gなど、総務省として重点をおき進めているテーマに関連した展示・議論が行われ、大変嬉しく思う。

新4K8K放送では、きめ細やかで色彩豊かな、臨場感あふれる映像で、先日の即位の礼、祝賀御列の儀、ラグビー・ワールドカップなどが放送された。今年のInter BEEでもスポーツが大きなテーマとなっているが、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される。さらに多くの視聴者に楽しんでいただけるよう、4K8Kの普及促進や受信環境整備などに官民一体となって取り組んでいきたい。

放送をめぐる環境は大きく変わってきている。放送そのものの良さを保ちながら、新しい技術、ビジネスモデルを取り入れ、さまざまな業種が連携して、新しい放送、コンテンツの姿をつくっていく前向きな取り組みを引き続き、後押ししていきたい。



総務省 情報流通行政局 大臣官房審議官
吉田 博史 氏

「相互交流の活発化で、新たな視聴形態、さまざまなサービスへの発展に期待」

放送のデジタル化が始まってからInter BEEは目覚ましい発展をしてきた。当時から、放送とデジタルコンテンツの相互交流により、ますますマーケットに関わる人が増えていくという期待があったが、実際、2011年から、出展者数、来場者数ともに、大きく伸びており、まさに、期待が具現化していると言える。

来年はいよいよ5Gがはじまる。4K8Kコンテンツがいよいよネットでも配信される。コンテンツ配信技術の中に、ビッグデータ、AIといった要素が加わり付加価値が向上していく。コネクテッドインダストリーという観点からも、Inter BEEを契機として新たなサービス、機器の開発が期待される。

東京オリンピック・パラリンピックでは、新たなさまざまな視聴形態が期待されている。本日のInter BEEに来ている方々の相互交流、情報交換をすることで、新たな視聴形態、さまざまなサービスへの発展が期待される。



経済産業省 大臣官房審議官
小笠原 陽一 氏

豊かなエクスペリエンスを開拓し続けるInter BEE スポーツをキーワードに社会的気運が高まる



初日の夕刻には、後援・協力団体、出展企業VIP、ユーザー、プレス関係者などを招き「Inter BEE 2019レセプション」が開催された。会場は、放送業界、機器メーカー、コンテンツ業界をはじめ、業種・職種を越えた華やかなトップ交流の場となった。

「みなさまと実現していくための大きな場として育てていただきたい」

おかげさまでInter BEEは今年で55回目。過去最高となる1,158社の出展者を迎えての開催ができた。一重に、ご協力をいただいている諸団体、関係官庁のご支援のたまものと感謝申し上げます。

JEITAは、主催者としてInter BEEをコンテンツを中核としたイベントに変えていこうと取り組んできた。おかげさまで、DCEXPOとの併催が今年で2年目になる。

『つくる』『おくる』『うける』という3つのキーワードのもとで、放送とデジタルコンテンツを中心に、豊かなエクスペリエンスを開拓していくというイベントになろうとし、また実際になりつつある。この流れをさらに発展させていくことが使命であり、みなさまと実現していくための大きな場として育てていただきたい。特に、今年はラグビー・ワールドカップがあり、かつ来年は東京オリンピック・パラリンピックという大きなイベントを迎え、スポーツというキーワードが今年の大きな中心になっている。このように、非常に大きな社会的な機運がある中、今年のInter BEEを皆さまにご活用いただき、来年に向けて主催者としていろいろなお動きをしていきたい。



一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 常務理事
川上 景一

「スポーツのリアルな感動を、より一層楽しんでいただくために」

今回のInter BEEでは、新たにスポーツ・コンテンツに着目した展示が設けられており、大変注目している。今年のラグビー・ワールドカップでは、日本代表のめざましい活躍のおかげで大変な盛り上がりを見せた。さらに、この一年を振り返ると、ゴルフやテニス、陸上競技などさまざまなジャンルにおいて、日本選手が卓越した結果を残している。

放送局は、新しい技術を積極的に取り入れながら選手の躍動する姿を視聴者にお届けしてきた。いよいよ来年は、東京オリンピック・パラリンピックが控えている。スポーツのリアルな感動を、より一層楽しんでいただけるようしっかり準備をしているので、ご期待いただきたい。

今年は、複数の台風が日本列島に上陸して猛威をふるい、度重なる集中豪雨などによって、首都圏を含む全国各地に深刻な被害が発生した。今も不自由な生活を強いられている被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

多くの民放局が差し迫った災害に直面しながら、さまざまな工夫を凝らして、視聴者の皆様へ迅速、的確に情報をお伝えするとともに、放送設備の維持に全力を挙げて取り組んだ。気象災害がますます深刻化し、大地震への警戒感が高まる中で、放送局としても万全の備えを講じるために、引き続き、関係各位のあたたかいサポートをお願いしたい。



一般社団法人 日本民間放送連盟 技術対策委員長
川口 忠久氏

「2020年、4K8Kで大いに日本中が盛り上がる年に」

ここ数年、Inter BEEは、最新の放送機器、設備はもとより、クラウド、サイバーセキュリティ、AR、VRこういった新たな映像表現を取りこみながら、放送を核とした総合メディアとしての展示会に進化・発展しつつあると実感している。NHKグループにおいても、映像・音声のベースバンド信号処理、変調・復調、送受信といったRF伝送技術など、従来の放送技術をしっかり維持しながら、IT分野の専門技術力を兼ね備えた技術者の育成に取り組んでおり、そういった人材をベースに組織力の強化にのぞんでいる。放送の世界が大きく変化していく中で、Inter BEEのような多くの関係者、専門家が集まる場はこれからますます重要になっていくと確信している。

ラグビー・ワールドカップでは、放送はもとより、全国のパブリックビューイングも大成功した。来年は、東京オリンピック・パラリンピックを迎える。ラグビー・ワールドカップ以上に、4K8Kで日本中の皆様といっしょに大いに盛り上がりしていきたい。NHKとしても、引き続き全力で取り組んでいく。



日本放送協会 (NHK) 技術局長
児玉 圭司 氏

「コンテンツに軸足を移し幅広い分野を網羅」

コンテンツに軸足を移したイベントとして盛大にスタートされたことを心よりお祝い申し上げます。今年で55回目のInter BEE。前の東京オリンピックの翌年からスタートしたということで、オリンピック、放送と深い関わりを持つイベントであるということがうかがわれる。映像、音声を組み合わせたコンテンツ、伝送、配信と非常に幅広い分野になり、Inter BEEに携わる人の産業は、放送産業だけではなくっており、もっと広い名前をつける必要があるかもしれない。

展示を拝見し、5Gに加え、AI、IoTなど、Inter BEEの技術者たちが新しい技術をどんどん取りこみながら発展していることは素晴らしい。今後ともさらなる発展をしていくことを期待する。



一般社団法人 電波産業会 代表理事専務理事
松井 房樹 氏

「繊細で奇抜なコンテンツの発信をしていきたい」

コンテンツは進化する生き物。より面白いコンテンツを発信し、世界をリードしていくことが重要。ソフトとハードは両輪であり、スポーツと芸術は表裏一体だと思っている。これからのデジタルコンテンツもInter BEEを盛り上げるため、新たな花鳥風月を現す繊細で奇抜なコンテンツを発信していきたい。



一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 会長
河口 洋一郎 氏



出展スペースを倍に拡大し高さ・広さを確保
体験型の展示で各種ソリューションを提案
オーディオテクニカ

Inter BEEの初開催より1年早い1962年に創業したオーディオテクニカ。グラミー賞の授賞式で毎年マイクを提供。また、記憶に新しい平昌 冬季オリンピック/パラリンピックのカーリング女子日本チームの「そだねー」を収録したのも、同社のマイクだ。日本が世界に誇るオーディオ・ブランドであるオーディオテクニカが、企業としてのブランディング強化の一環として、今年のInter BEEでこれまでの倍の展示スペースを確保し、同社の総合的なショーケースとした展示を実施した。そのねらいとテーマ、Inter BEEの位置付けなどについて、マーケティング部 宣伝販促課 宣伝グループの岡田敬子氏と、プロオーディオ営業部 プロフェッショナルS課の土屋典之氏に、Inter BEEの出展のねらいなどについて聞いた。



株式会社オーディオテクニカ
マーケティング部
販売促進課 宣伝G
岡田 敬子 氏 (左)
プロオーディオ営業部
プロフェッショナルSS課
マネージャー
今野 一彦 氏 (中央)
プロオーディオ営業部
プロフェッショナルS課
土屋 典之 氏 (右)

プロオーディオのラインアップを出展 実際の空間を模したスペースでデモ

■出展のテーマと狙いは？

「これまで主に会議システムを出展していたが、プロオーディオの部門も含めた展示にしている。垣根を越え、オーディオテクニカのプロオーディオ営業部としての出展となった。幅広いラインアップと事業展開をお見せすることができた」と語るのは、岡田敬子氏だ。「今年は広さを活用し、ソリューションで見せるという方針のもと、体験型のスペースをつかった。会議室を模したスペース、収録スタジオのスペースなど、実際に近い3つのスペースをつくり、そこに自社製品を設置することで、ユーザーが実際の空間でクオリティや効果を試せるようにした」という。

「展示エリアの高さも、これまで以上に確保できたことで、ソリューションで見せる、体験型の展示ができた。今回展示を初めて担当したが、初日としては今まで以上に人の入りがあると実感している。オープンなスペースにしたことも大きな効果になっている」(岡田氏)

「さらに新たな試みの一つとして、コーヒースタンドを設けて、入れたのコーヒをサービスし、香りも含めて



楽しんでもらえる空間作りをした。これによって、ブースに足を運んで頂いた方々に、じっくり見て頂ける雰囲気を作り出している。新しいお客様もお招きしながら、当社をご存じの既存のお客様を大切にできる空間づくりを意識した」

■5つの新製品を発表

ラインアップを拡げた今回の展示では、TASCAMとの共同開発を行ったデジタルスマートミキサーや赤外線バウンダリーマイクロホンなど、全5モデルのプロフェッショナル向け新製品を発表している。各製品の特徴について、土屋氏は次のように説明する。

「1点目は、デジタルスマートミキサー『ATDM-1012』。一昨年に発表したATDM-0604の基本機能をベースに、プロセッシングを強化した。当社初となるDANTE入出力を搭載したDANTEモデルも同時展開している。マイクメーカーとしてDANTE。通信のしやすさ、引き延ばし、ノイズを少なくデジタル信号で実現している。DANTE規格の信号を送れるので、タリーとして映像を切り替えるなどの工夫が可能だ」(土屋氏、以下同)

「2点目は、ウォールマウントアンテナの新製品『ATW-A808H1』。会議室やセミナールームなどの設備

に適した天井取り付けタイプのホイップアンテナ。意匠において制限のある会議室等にも有効的で、こちらはアンテナブスター ATW-B80WBとも直接接続できるような機構になっておりB帯ワイヤレス施工時にもストレスなく設置できる」

■会議システムATUCシリーズをリニューアル

投票機能を新たに追加

「3点目は『ATW-A410P』。こちらは470～990MHzまでカバーしており、B帯だけでなくWS帯等、多岐に渡る周波数帯運用にも有効なアンテナとなっている。またATTも-10～+12dBまで対応、運用に応じた幅広い切り替えが可能だ」

「4点目は赤外線バウンダリーマイク『ATIR-T860』。現行の赤外線マイクシステムで運用が可能。最大8波まで利用いただける。こちらはマイクの指向性を半球前方指向性/全指向性と切り換え可能。TV/WEB会議に最適なワイヤレスバウンダリーシステムとなっている」

「5点目は『ATUC-50DUa+ATUC-VU』。会議システムATUCシリーズのマイクユニットATUC-50DUがリニューアル。新たに加わった投票ユニット『ATUC-VU』を駆動させる電源供給が可能。投票機能を必要とする会議

シチュエーションにも最適だ」(以上、土屋氏)

■出展手続きがすべてオンラインで済むなど、作業効率の良さを評価

Inter BEEの位置付け、会場運営など、細かい点での要望、Inter BEEとしての評価について、岡田氏は次のように話す。

「放送、映画だけでなく、B2B、B2Cのオーディオのお披露目の場として、Inter BEEは、重要な場と位置づけている。それとともに、基本的に展示がオンラインですべて済む点が良いと思っている。書類提出なども含めて、郵送の手間がない点など、すごく助かっている。小間割抽選会も滞りなく、スムーズに進んでおり、待ち時間もなく、方法もスマートだと感じている」

世界のオーディオブランドとして世界の音楽、スポーツの檜舞台で実績を重ねるオーディオテクニカは今、2020年東京オリンピックへ向け新たな準備を始めているという。

スムーズなセッティングが可能な三脚システムなど
ラインアップをブースで「使い倒して」もらいたい
ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社



三脚やスタジオ機器など、プロフェッショナルビデオグラファー向けの周辺機器を提供するヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社。Inter BEE 2019では100mmボール径に対応した三脚システム「Flowtech 100」シリーズを中心にブースを構成し、多くの来場者が使い勝手を体験していた。スタジオコーナーも用意し、ペDESTALやプロンプターシステムなどのスタジオ機器のラインアップも体験できるブースづくりである。

来場者に製品を試してもらい、コミュニケーションを取る場としての活用を目指したヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社のブース。同社でセールス/マーケティングを担当する澤崎友紀氏に、Inter BEE 2019出展の狙いを尋ねた。



ヴァイテックプロダクション
ソリューションズ株式会社
セールス/マーケティング
澤崎友紀氏

新しい三脚システムを含めて 実際の使い勝手の良さをアピール

■出展のテーマと狙いは？

「ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社では、2019年に新しい三脚システムのFlowtech 100シリーズの提供を開始した。それまで提供していたFlowtech 75では75mmボールに対応していたが、Flowtech 100では100mmボールに対応し、より重量のある機材での利用が可能になった。一方で、市場への認知は既存のFlowtech 75に比べると、新製品のFlowtech 100はまだまだという部分もある。Inter BEE 2019では、Flowtech 100の認知度を高めることを第一のコンセプトにブースを構成した」

「三脚システムだけでなく、ブースの奥にはスタジオコーナーも用意した。ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社では、スタジオ機器も古くから提供しており、原点回帰としてプロビデオ用の三脚やプロンプターシステムなどのスタジオ機器のラインアップを展示した」



■高速セッティング機構で

効率的に撮影可能な三脚システム

「Inter BEE 2019では、ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社を取り扱う主力3ブランド（Vinten、Sachtler、OConnor）の三脚が揃ってFlowtech 100に対応したことから、ブースの正面に3ブランドのFlowtech 100製品を並べた。同じグループに属するブランドであり、Flowtech 100の統一したデザインを採用するとともに、クイックリリースブレーキとラバーフィートの色で各ブランドの独自性も表現している」

「Flowtechシリーズは、三脚のセッティングを格段に容易にする画期的なカーボンファイバー製の三脚システムだ。通常の三脚は、上下2カ所のロック部をそれぞれリリースして調整しないと高さを変えられない。Flowtechシリーズでは、三脚の上部にクイックリリースブレーキを備え、これをリリースするだけで3本の脚の高さを自在に変えられる。ミッドレベルスプレッダーやグラウンドスプレッダーだけでなく、スプレッダーレスでも使用可能のため、様々な条件での撮影に利用できる。グラウンドスプレッダーは足でボタンを押すだけで調整ができ、屈まずにセッティングが

可能だ」

「Flowtechシリーズは、撮影のためのセッティングの負担を減らして、短時間でセッティングが完了するように作られた三脚システムである。一人で撮影するような場合にも、屈み込んだり、多くの場所を調整したりすることがないため、少ない負担で短時間にセッティングできることをブースで実際に体験して知ってもらいたい」

「Vintenは報道、Sachtlerは制作、ドラマ、OConnorは映画など、それぞれの得意分野がある。Flowtech 100では、これまでVintenとSachtlerの2ブランドで提供してきたが、OConnorブランドの製品が登場したことで3ブランドを揃ってブースで試してもらえた」「プロビデオ用のスタジオコーナーでは、Auto Scriptブランドのプロンプターや、Vintenのクアトロ・ペDESTALのラインアップなどを展示している。地方の放送局などにはラインアップを見せに行くことができないため、Inter BEEの場で見てきっかけを作ってもらいたい」

■消費者に製品を体験してもらおう貴重な場

Inter BEEは、国内で最大の映像関連展示会として、

多くの来場がある。ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社の取り扱い製品のラインアップをまとめて消費者に見てもらえる場として貴重な存在だと認識している。消費者が実際に製品を体験して、その感想や実際の使い方などの話を聞けることに大きな意義を感じている」

「ヴァイテックプロダクションソリューションズ株式会社の製品は、プロビデオのジャンルでは高い知名度をもっている。一方で、ユーザーの幅はもっと広がってほしいと考えている。Web制作であったり、フリーランスの映像作家であったり、さらにはバドウォッチャーなどにも使ってもらえると思う。Inter BEEの会場には様々な消費者が来場しており、多様な視点でブースの製品を使い倒してもらって、製品の特徴や良さを実感して帰ってもらえたら嬉しい」

「消費者と触れ合うことができる貴重な場として、来年以降もInter BEEには出展を考えている。そうした中で、Inter BEEに要望があるとすれば、11月の年に1回と言わずに、年に2回程度このような場を設けてもらえたらありがたいということ。消費者に製品を使い倒してもらって、意見をもらえる機会を、もっと増やしていただきたい」



Inter BEE で Vtuber「りむ」がデビュー 来場者との対話や立体音響など総合的なソリューション提案 タケナカ シムディレクト

シノニティグループのタケナカとシムディレクトは、自社プロデュースのVtuber「りむ」のステージを自社ブースで実施した。イベントやライブの企画・制作をシムディレクトが担当。映像音響照明のプランニング、コンテンツ制作、本番オペレートをタケナカが担当している。

今回のInter BEEを以てデビューとなる「りむ」が登場するライブステージでは、「りむ」とともに、同社が手掛けたステージにおける9個のスピーカーを用いたイマーシブオーディオ、曲線を組み合わせたデザインが可能なLEDパネル、アプリを使ったリアルタイムのイベント演出などのソリューションをアピールした。

同社広報担当の舛井奈緒氏に、Inter BEEにおける出展のねらいや、Vtuber「りむ」の今後の展開などについて聞いた。



株式会社タケナカ 東京本社
株式会社シムディレクト 東京本社
広報
舛井 奈緒氏

リアルとバーチャルを組み合わせた体験 映像、音、照明を活用した多彩な演出

■出展のテーマと狙いは？

「タケナカは、『Real & Virtual Experience Provider.』を目指している。これまで長年にわたり展開してきた空間演出に加え、VRやスマートフォンを使ったソリューションなど、バーチャルな演出、コンテンツを新たに加えることで、バーチャルとリアルを組み合わせたエンターテインメントを実現したいと考えており、今回は、その一環としてVtuberに取り組んだ」

「Inter BEEでは、当社が展開する4つのソリューションを注ぎ込んだステージを実施することで、業界関係者、特に放送、イベントをはじめとしたエンターテインメント業界において演出を手掛けられている方に見ていただきたいと考えた。「りむ」は今回が初のお披露目だが、今後、Vtuberとしての活動とともに、さまざまなステージ演出でも起用していただき、ぜひ業界の方とともに育てていきたい」

■イマーシブオーディオでVtuberの声を立体的に演出

「1つ目のソリューション『イマーシブオーディオ』の



紹介では、9個のスピーカーを用いた9.1chオーディオで「りむ」が会場内を移動しているように聞こえるよう、声の位置を3次元的に動かすデモを実施した。ライブステージの中でも声や音楽にイマーシブオーディオを駆使した演出をしている。技術面に加え、イマーシブオーディオを用いたVtuberや映像が音と連動した演出をするという点も、タケナカの特徴だ」

■多様な形状のLEDを組み合わせたステージデザイン

「2つ目のソリューションは、多様なLEDディスプレイとステージデザイン。今回、円や三角形、シースルーなど多様な形・種類のLEDを組み合わせたステージデザインをしているが、このLEDも今回初の紹介となる。曲線をまじえた自由な形状のディスプレイを構築できるため、多彩なイベント演出も可能。当社では、3Dシミュレーションソフトを用いて、ビジュアライズしながら映像や照明を視覚的・直感的にデザインしているため、お客様の要望にも柔軟に対応できる」

「今回のステージではこのLEDを、3レイヤーにして設置することで、奥行き感を出している。また、この変わったステージの形が、人々の目を惹いている」

■参加者とのインタラクティブなステージ演出

「ステージでも実施している、スマートフォンを使ったリアルタイム演出は、『Join Visual』と呼ぶ参加型イベント演出パッケージ。参加者がコメントや投票を行い、その結果をリアルタイムにビジュアライズできるなど、会場に訪れた来場者とステージを効果的につなぐことで、来場者の関心を高めることができる」

「会場では、ウェブ上のハートをタップすることで「りむ」にパワーを送るという設定で、来場者のタップに応じて、「りむ」の元気が出てくる様子を演出する。また、ウェブ上でコメントを書くこともでき、その書き込みは会場のLEDにリアルタイムに反映される」

「来場者からの問いかけにリアルタイムで「りむ」が反応することによって、観客を巻き込む演出としても効果的だ。会場で表示されたQRコードを読み取ることで、アプリをダウンロードすることなく、ウェブページからコメントや投票ができるという手軽さも会場での利用を促進する要素になっている」

■リアルとバーチャルを組み合わせたVtuberの演出

「最後の4つ目のソリューションが『Vtuber』の「りむ」だ。「りむ」を作り始めたのは今年4月からで、キャラク

ター設定、デザイン、モデル化、システム検証などを進めてきた。Vtuberとしての完成度はもちろん、バーチャルな存在のVtuberを、実際の人の組み合わせでどう見せるか。バーチャルとリアル間のモノの行き来をどう見せるか、といった演出面でも工夫を凝らしている」

「画面上で見る「りむ」がステージ上のLEDに表示されるだけでなく、実際にステージにいる進行役や、会場の来場者とのやりとりを演出することにより、『そこにいる』という感覚を生み出している」

■Inter BEEのプロモーション展開を評価

「Inter BEEは、多くの業界関係者が集まる場として、りむのデビューに相応しい場と考えた。また、Inter BEE Onlineマガジンの事前取材やSNSでの展開、さらに会場でのVOD映像取材など、さまざまなプロモーションの支援をしてもらえる点は、他の展示会との大きな違いと評価している。SNSを見て関心を寄せて頂いた方も少なくない」

「会場では、「りむ」の滑らかな動きを見て、足を止めてくださる方が多かった。また、ステージの曲線を多用したLEDや、ステージの演出面にも関心を持っていただくことができた」



映像データを遠隔地に安全でスムーズに送りたい
映像制作会社ならではの映像伝送サービスをお披露目
フェアウェイ

映像制作会社として33年の歴史を持つフェアウェイ。2000年からIT事業にも参入し、映像制作会社ならではの自分たちが直面する悩みをITで解決するソリューションを提供している。Inter BEEには数多くの出展経験があるが、直近では4回連続の出展となる。Inter BEE 2019では、映像伝送を主軸に据えた通信サービスの「ixBee」(イクスピー)、「ixPyder」(イクスパイダー)をお披露目し、これらを中心にブースを構えた。

フェアウェイで企画宣伝部 部長を務める野室和佳子氏に、映像制作会社が通信サービスの提供にまで取り組む意義と、Inter BEE 2019での来場者へのアピールポイントについて聞いた。

株式会社フェアウェイ
企画宣伝部 部長
野室 和佳子 氏 (右)
企画宣伝部
吉田 萌 氏 (左)



複数の一般回線を束ねて高速化・高信頼化 低料金で使える映像伝送向けの通信サービス

■出展のテーマと狙いは？

「前回のInter BEE 2018では、モザイク処理を容易にする専用の編集機「GANTAI」(ガンタイ)を中心に出展した。Inter BEE 2019では、安定した映像伝送を低コストで実現する新しい通信サービスを出展の中心に据えた。2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会を契機に、4K/8Kの制作が広がっていく。一方で、高精細な映像伝送はコストがかかり大企業でないと利用できないのが現状だ。4K/8Kを含めた高精細なパブリックビューイングなどを容易に実現できるように、フェアウェイでは新サービスの提供を開始した。それが、「ixBee」(イクスピー)だ」

「ブースの壁面には、『データは持っているだけではただの財産だ。データは誰かと共有し活用することで資産になる、価値が生まれる』というコンセプトを書き綴った。自分たちが映像制作会社として業務を進める上で、既存の製品やサービスでは痒いところに手が届かないところがある。データを共有し活用できるサービスをお披露目することで、来場者にも新しい価値の創出のきっかけを



つかんでもらいたい」

■1Gbps一般回線を束ねて 高速高信頼の通信回線を提供

「Inter BEE 2019では通信サービスの「ixBee」をメインで展示した。ixBeeは主に映像伝送を想定した通信サービスで、2拠点間の通信に加え、3カ所以上の拠点をつないだ伝送サービスも可能だ。映像伝送の回線には通常、比較的安価な最大1Gbpsの一般回線を使うことがあるが、帯域が不足したり安定性に欠けたりすることがある。一方で、1Gbpsを超える回線となると、次の選択肢は10Gbpsのイーサネット専用線となる。1Gbpsの回線とは比較にならない高額な料金設定であり、中小企業などでは利用が難しい。これらの両者の間を埋めるような通信サービスとしてixBeeを開発し、提供することにした」

「具体的には、1Gbpsの一般回線を複数束ねる特許出願中の技術を用いて、高速性と通信の安定性を保ち、同時に10Gbpsの専用線のような高額な料金にならない料金設定のサービスを作った。2拠点間を結ぶパッケージの場合、一般回線を2回線束ねた最大2Gbpsの速度が可能。さらに3拠点以上の複数拠点を結ぶサービスの

場合、ネットワークの中心にフェアウェイのデータセンターを介する構成を取るカスタム型のサービスとなる。この場合、束ねる回線数の設定も柔軟に対応する」

「ブースのステージでは、フェアウェイの当社とixBeeを使って映像伝送するデモを大々的に行った。幕張メッセなどのイベント会場では、展示会開催時に通信環境が劣悪になることがある。デモを通じて2回線以上の一般回線を束ねることで、安定した映像伝送が可能であることを確認してもらえたと思う。専用線は高速であっても1本では回線が途切れたら通信も切れてしまうが、ixBeeは複数回線を束ねているために1本にトラブルがあっても通信を継続できることもアピールした」

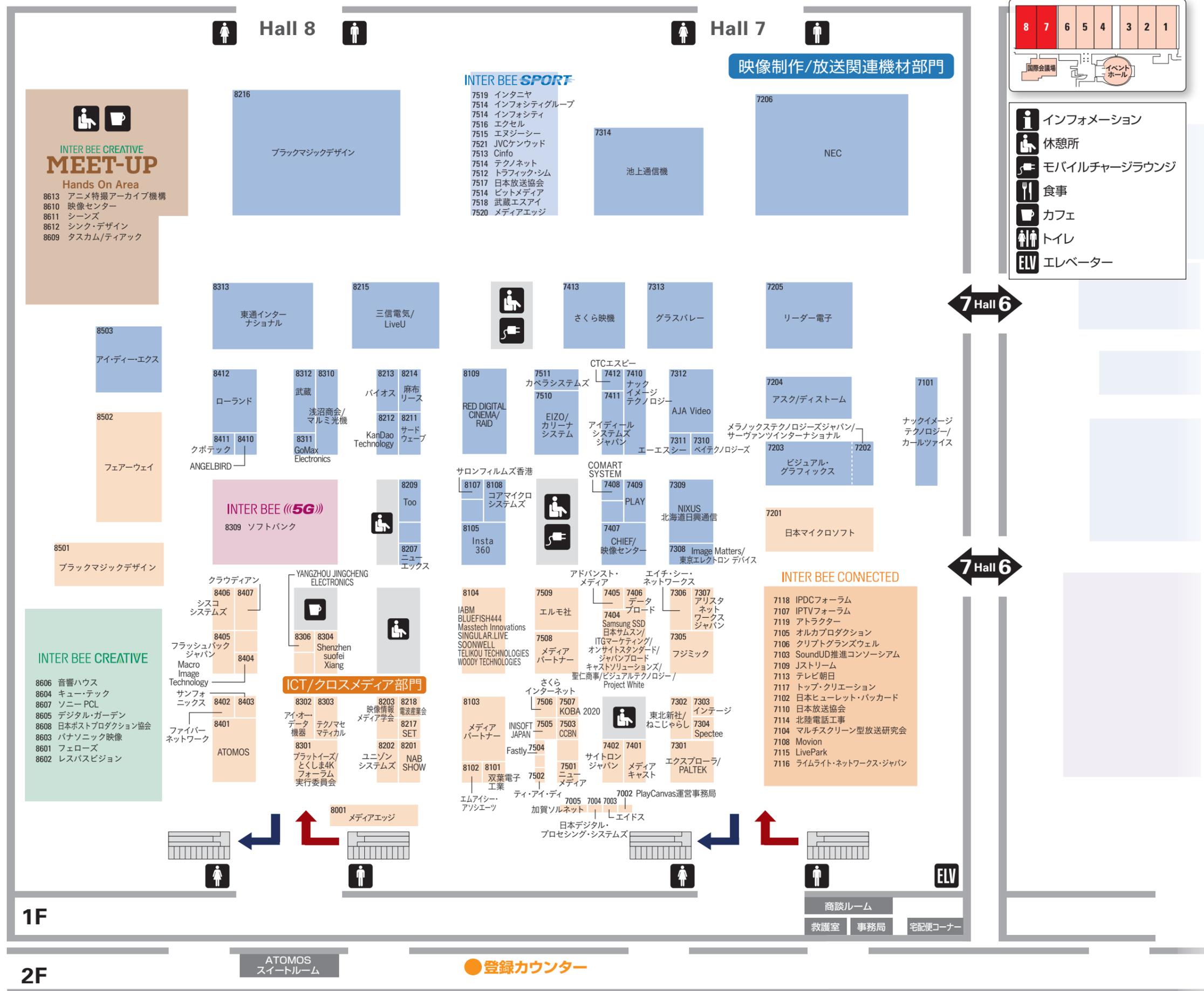
「複数の回線を束ねて通信するixBeeの特許技術は、低コスト、通信の安定性に加えて、セキュリティ面での信頼性向上にも寄与する。通信するデータの側から見ると、複数回線にデータを分散して送ることになるため、万が一の場合に1回線のデータを盗み見られても、本来の通信内容の漏洩は防げる。こうした特性から、映像伝送用途に限らず、セキュリティを確保した高速通信が求められる用途でも利用してもらいたい」

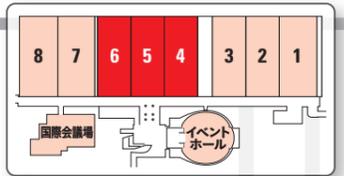
■1年の中でも最大の広告、出展企業間の交流に期待

「Inter BEEに出展することは、1年のうちでも最も大きな広告であり、大きな効果が得られている。この数回は毎回同じ場所にブースを設けることができており、『去年もここで出展していたね』といったお声掛けをもらうこともあり、企業認知につながっている。事務局にも様々なケアをしてもらっていて、出展企業としてはとても助かっている」

「一方で、来場者の関心を高めるには、ブースの中でいかに頑張るかしかできないことがない。来場者をブースに集めるには、少なからず苦勞があるのが実情だ。最寄りの海浜幕張駅から会場の幕張メッセの間は大企業の広告で埋め尽くされているが、中小企業には手が届かない。中小企業でも移動経路上に集客のための露出ができるような場所や低料金の屋外広告メニューがあると、来場者により強くアピールできるだろう」

「会場には関連する業界の人々が数多く来ているはずだが、現実的には出展企業は他のブースを見て回れず他企業と交流できない。特に中小企業同士では交流や情報交換が難しいと感じている。出展企業は、相互に顧客になりうると感じており、中小企業を中心とした交流やコラボレーションの場があると、より出展の効果が高くなるだろう」





Hall 6

Hall 5

Hall 4

映像制作/放送関連機材部門

井の川クラフツリ

6404 NHK/JEITA

6113 ソニー/ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ/ソニービジネスソリューション

5306 富士フイルム

5108 伊藤忠ケーブルシステム

4612 東芝インフラシステムズ/東芝ライテック/東芝デジタルソリューションズ/キオクシア

4314 キヤノン/キヤノンマーケティングジャパン

4206 朋栄

6403 フォトロン

6210 アビッドテクノロジー

6112 富士通

5409 アイ・ディ・ケイ/アルパニクス

5107 コスミックエンジニアリング

4611 三友

4416 シグマ

4313 ケンコープロフェッショナル イメージング/ケンコー・トキナー/スリック/MISONICS

4205 イメージニクス

6402 エヌジーシー

6304 タックシステム/ADDER Technology

6209 JVC ケンウッド

5609 石川トランク製作所

5206 Well Buying Industrial

5105 アンリツ

4513 クロス イメージング

4414 DENSTRON

4107 HD Vietnam

6401 アマゾン ウェブ サービス ジャパン

6303 TBSテレビ

6206 アルピクス

5503 SEHテクノロジー

5203 ナッシュスタジオ

5102 コムワース

4509 エイム電子

4413 キヤムキャスト7

4104 テレデザイン・ジャパン

INTER BEE IGNITION

6302 伊東洋行

6204 インフレッド・ジャパン

6107 Aputure Imaging Industries

5202 オンテック

5101 Extron Japan

4506 加藤電気工業所

4407 INTOPIX

4103 すずまる

映像表現/プロライティング部門

D601 凸版印刷

D310 アルファコード

D205 Noitom

4505 ラリタン・ジャパン

4406 Cominix

4102 IYUNO MEDIA GROUP

6003 SHENZHEN GLOSHINE TECHNOLOGY

6002 SHENZHEN HONGMAO YUANZE OPTOELECTRONIC

D503 ALE

D303 スクウェア・エニックス

D202 NIPA

4504 高橋建設

4401 NTTグループ

4101 マイクロボード・テクノロジー

1F プレゼンルーム

アマゾンウェブサービススイートルーム

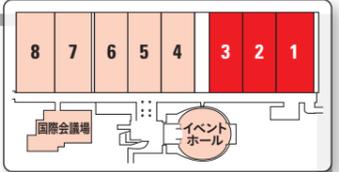
ELV プレスルーム

ELV 事務局

ELV 商談ルーム

ELV ミーティングルーム

2F



Hall 3

Hall 2

Hall 1

映像制作/放送関連機材部門

プロオーディオ部門

4 Hall 3

4 Hall 3

映像制作/放送関連機材部門

3508 共信コミュニケーションズ

3114 アストロデザイン/デルタ電子

2514 パナソニック/パナソニックシステムソリューションズジャパン

2214 セカンドステージ

2115 ヒビノ/ヒビノクロマテックDiv./ヒビノインターサウンド/ヒビノライティング/エレクトリ

1315 ヒビノプロオーディオセールス Div./ヒビノインターサウンド

1211 ヤマハミュージックジャパン

3507 アサカ

3313 EMCジャパン

3314 スピンドigitalアジアパシフィック

3113 NHKテクノロジーズ

2513 平和精機工業

2414 日立国際電気

2213 テクノハウス

1515 テクノハウス/エレクトリ/日本音響エンジニアリング

1314 シュア・ジャパン

1210 タムラ製作所

3408 ユニテックス

3311 JEITA テーパストレージ専門委員会

3112 3MIM

2711 伊藤忠テクノソリューションズ

2712 ターボシステムズ

2612 ニコン/ニコンシステム

2512 オタリテック

2511

2510 Riedel Communications

3407 Harmonic Japan

3310 スタック電子

3309 OA研究所

3111 ねこじゃらし/モルフォ

2709 ミハル通信

2611 EIMAGE STUDIO EQUIPMENT

2509 カナレ電気

3607 NANLITE

3505 タケナカ/シムディレクト

3205 INTER BEE IPAVILION

3110 日本コントロールシステム

3109 テクトロクス

2609 ニックヤビ/プランネット

2610 田中電気

2509 マウビック

2507 エル・エス・アイジャパン

2412 松田通商

2211 メディア・インテグレーション

2110 リワイアー

2111 フラウンホーファー IIS

1513 オーディオブレインズ/MARTIN AUDIO JAPAN

1310 オーディオテクニカ

1209 パナソニック/パナソニックシステムソリューションズジャパン

1208 ベステックオーディオ/ピーテック

1207 音響特機

3606 放送技研

3605 おいぬビジョン

3504 エーティコミュニケーションズ

3406 銀一

3308 メディアリンクス

3204 スター コミュニケーションズ/TVU Networks

3107 DTS インサイト

3108 セイコーソリューションズ

2708 サムウェイ

2506 モリサワ

2504 ラガヒルズ/DATATON

2410 FBT Electronica

2411 クリプトン・フューチャー・メディア

2210 Audinate Pty

2208 静科

2207 モアソンジャパン

2109 サザン音響/サザンコースティクス

1511 デジコム

1512 スズム

1309 シンタックスジャパン

1308 エムアイセブンジャパン

1307 ジェネレックジャパン

1206 ゼンハイザージャパン

1205 音響特機

3604 よしみカメラ

3603 スタジオエビス

3602 ONCE SPORT

3601 ヴィーナスレーザー

3503 NKL/Backstage Equipment/イデオモーターロボティクス/Cartoni SpA/Grip-Factory Munich

3405 プロライト・ダウティ

3404 エミック

3306 RIP-TIE

3305 アルモア

3202 KUPO

3106 ValueHD

3105 データドック

2704 アスコット

2505 ラガヒルズ/DATATON

2503 三井物産エアロスペース

2404 放送サービスセンター/川上産業

2308 メディアプラス

2307 スタジオイタイメント

2204 イーストオーディオ

2104 モガミ電線

2105 MQA

1507 パルス

1506 イースタンサウンドファクトリー

1406 三研

1405 Denon Professional/RANE/Marantz Professional

1404 ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン

1306 ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン

1305 Ronkジャパン

1304 エヌティエイジャパン

1206 ゼンハイザージャパン

1205 ポーズ

3502 ACEBIL JAPAN

3501 日本ビデオシステム

3402 ミンrray Industry

3403 扇産産業

3303 RFデザイン

3304 RFデザイン

3201 Guilin Feiyu Technology

3104 エルザジャパン

2703 アスコット

2702 松浦機械製作所

2604 プロスパー電子

2601 三井物産エアロスペース

2501 メイコー

2402 ノイトリック

2403 サウンドビュー

2304 アツデン

2303 グループ

2302 谷沢製作所

2206 フックアップ

2203 I.S.D.Japan

2103 ボッシュセキュリティシステムズ

2102 ヤマハサウンドシステム

2101 花岡無線電機

1504 ワタナベ楽器店

1505 アコースティックフィールド

1403 ミックスウェブ

1404 ルミネックスジャパン

1302 オンズ

1301 ドリーム

1203 須山歯研

1202 シグマシステムエンジニアリング

1201 アンケートスペース

1107 ゼンハイザージャパン

1104 ロールランド

1105 日本テクトラスト

1106 エムアイセブンジャパン

1108 オタリテック

3004 エヌ・イー・ビー

3003 bat factory

3002 bat factory

3001 bat factory

2006 スタジオイタイメント

2005 ウェルクラフト

2004 関西放送機器展

2003 理経

2002 Deity Japan

2001 オンキヨーデジタルソリューションズ

1009 アンペール

1008 ボルトアンペール

1007 東レプラスチック精工

1006 A.O.M.

1005 コモドマッティナー

1004 宮地商会

1001 フリーバード

INTER BEE EXPERIENCE

- X-Headphone**
ヘッドフォン試聴体験展示
- 1116 アユート
- 1115 ゼンハイザージャパン
- 1113 城下工業
- 1112 リワイアー
- 1114 ヤマハミュージックジャパン
- 1111 スタックス
- 1110 シュア・ジャパン
- X-Microphone**
マイクフォン試聴体験展示
- 1109 シュア・ジャパン
- 1101 ソニーマーケティング
- 1102 ウエタックス
- 1103 三研
- 1107 ゼンハイザージャパン
- 1104 ロールランド
- 1105 日本テクトラスト
- 1106 エムアイセブンジャパン
- 1108 オタリテック

1F

2F

イベントホール INTER BEE EXPERIENCE X-Speaker

登録カウンター

ONLINE MAGAZINE

Inter BEEでは、出展情報や国内外の関連展示会情報を独自に取材するチーム「Inter BEE ニュースセンター」を設置しています。出展製品、展示会情報は、取材チームによる記事・映像コンテンツとなり、会期前、会期中、会期後と年間を通じて、公式Website内のOnline MagazineやInter BEE TVによって発信されました。

Inter BEE Online 掲載記事（一部/抜粋）

プロオーディオ

Professional Audio

SR/ラインアレイ・スピーカーなど、音響装置の小型化・高機能化で利用シーンがさらに拡大。DANTEなど、デジタル・ネットワーク化、ワイヤレス・ネットワーク対応が充実し新たな次元に



映像表現 / プロライティング

Video Expression / Professional Lighting

スポーツからエンタメまで、LEDの高機能・高性能化により表現力・演出力が大幅に向上。コンピュータ制御により、リアルタイムな音と光のシンクロナイズで高度な演出可能に



映像制作 / 放送関連機材

Video Production / Broadcast Equipment

4Kから6K-8Kへ高精細化が進展、フィルムを越える解像度で本格的なデジタル映像時代到来。IPネットワーク化で映像制作の効率化・高機能化が広がり、多彩な演出・多様な視聴が実現



ICT / クロスメディア

ICT / Cross-media

新たなコンテンツ・ビジネスの可能性を拓ける、XR/バーチャルキャラクターが多数集結。クラウド/AI/5Gなど、コンテンツビジネスの近未来を支える技術関連展示も充実度増す



プロオーディオ Professional Audio

Dan Dugan Sound Design 2019.11.11 UP
オートマチックミキサー新製品を出展
スピーチシステムやミュージックシステムなどの
実機体験をデモ




ルミネックスジャパン(株) 2019.11.12 UP
イーサネットスイッチ「GigaCore」用ネットワーク
管理ソフト「Araneo」など、AV機器IP接続用の
各種最新装置を出展 オタリテックの協力でリール
製インカム向けの相互光ファイバー接続も実施




(株)アートワズ 2019.12.12 UP
メイヤーサウンド社の新スピーカー「ULTRA-X40」、
「ULTRA-X42」を出展




(株)エレクトリ 2019.12.12 UP
KRK ROKIT G4シリーズを出展




(株)オーディオブレインズ 2019.12.12 UP
デジタルワイヤレスコミュニケーションシステム
「Unite」を紹介




(株)タムラ製作所 2019.12.12 UP
NETWORK INTERFACE「TS-10289」、
可搬型 DECT 方式インターカムシステム
「MK-H96」を出展




エヌティーアイジャパン(株) 2019.12.12 UP
オーディオ & アコースティックアナライザ「XL2」、
オーディオアナライザ「FX100」を出展




オタリテック(株) 2019.12.12 UP
LAWO社 コンソール「mc²56」、
IP放送ビデオ・コア・インフラストラクチャー製品
「V_matrix」を出展




クリプトン・フューチャー・メディア(株) 2019.12.12 UP
オーディオ・リベア・プラグイン
「ERA 4 シリーズ」などを出展




シュア・ジャパン(株) 2019.12.12 UP
ワイヤレスシステム「AXD Digital」
シーリングアレイマイクフォン「MXA910」等を
出展




ゼンハイザージャパン(株) 2019.12.12 UP
ワイヤレスマイク「Digital 6000 シリーズ」を出展




ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン(株) 2019.12.12 UP
コンパクト・デスクトップ・ミキサー SiXを出展




ティアック(株) 2019.12.12 UP
4K/UHD STREAMER「VS-R265」等を出展




ディーアンドビー・オーディオテクニク・ジャパン(株) 2019.12.12 UP
新型アレイスピーカー「A-Series」、
新型サブウーファー「B8」「B8-SUB」等を紹介




パナソニック(株) 2019.12.12 UP
RAMSA 40周年を記念し
歴代の製品群を実機展示




ヒビノインターサウンド(株) 2019.12.12 UP
「SD7 Quantum」を出展




ポーズ 2019.12.12 UP
商業空間向けスピーカー「DesignMax」を出展




(株)メディア・インテグレーション 2019.12.12 UP
McDSP(マックディーエスピー)世界初、
DAWにプラグインする「アナログ」プロセッサー
「APB-16」を出展




(株)ヤマハミュージックジャパン 2019.12.12 UP
ラインアレイ型スピーカー Portable PA System
「STAGEPAS 1K」等を出展




音響特機(株) 2019.12.12 UP
QSC(大型設備向け DSP プロセッサー
Q-SYS Ecosystem Solution「NV-32-H」を出展




松田通商(株) 2019.12.12 UP
5GHzワイヤレスインターカムシステム
Clear-Com「FreeSpeak Edge」を出展




(株)放送サービスセンター/川上産業(株) 2019.12.12 UP
「同時通訳ブース」、Wi-Fiを使用した
スマートフォンへの音声配信システム、
同時通訳システムを紹介




(株)オーディオテクニカ 2019.12.13 UP
TASCAMとの共同開発による
デジタルスマートミキサー「ATDM-1012」
「ATW-A808HH1」等 新製品出展




ヒビノ(株) 2019.12.13 UP
コンパクトSR用ラインアレイ・スピーカー
「VTX-A8」を出展




映像表現 / プロライティング

Video Expression / Professional Lighting

Aputure Imaging Industries Co., Ltd. 2019.12.11 UP
LED 照明機材「Light Storm 300Dii」「MC」
「Nova 300」を出展




(株)伊東洋行 2019.12.11 UP
中国 Intuit 社と合同ブースを出展し
小規模プロジェクションマッピング機材を出展




(株)東京舞台照明 2019.12.11 UP
防滴 LED ムービング 照明「GLW760 IP」を出展
参考出展で GLX IP をデモ




佛山青松科技 2019.12.11 UP
「IMPOSA Xfinity」を出展




映像制作 / 放送関連機材

Video Production / Broadcast Equipment

アストロデザイン(株) 2019.10.07 UP
8Kの産業分野への応用をメインテーマに出展
8K120Hz対応カメラや8K VRシステム、
8K 伝送システムなどを出展




HD Vietnam 2019.10.16 UP
ベトナムの放送局向けソフト開発会社
HD ベトナムが初出展 日本の放送局向けに
8Kクラウドシステム等をデモ 日本市場進出へ
提携パートナーを募集




ブラックボックス・ネットワークサービス(株) 2019.10.24 UP
長距離の高精細映像伝送に対応した
KVM/AV 最新機材を出展




アテイン(株) 2019.10.28 UP
自動昇降式プロンプター「MPS190」や
10インチの小型サイズ「X-10A」を出展
VRなど返し映像の確認にも有効




アビッドテクノロジー(株) 2019.11.01 UP
最新版 Protocols、Media Composer や
クラウドソリューションを出展
ハリウッドからゲストスピーカーを招いた講演や、
関西テレビ8K制作事例などを紹介




Iyuno Media Group 2019.11.07 UP
世界 82 言語の字幕・吹き替えサービスを展開する
クラウドベースの字幕制作・
プロジェクト管理システム「MSX」をデモ




(株)ナックイメージテクノロジー 2019.11.11 UP
アスクと共同でリアルタイム4K-CGを実演




日活(株) 2019.11.11 UP
オンラインスタジオ・ポスプロ予約サイト
match85を出展 クラウド上で予約管理
撮影条件などスタジオのスペック確認も可能




さくら映像(株) 2019.11.12 UP
8K番組制作ワークショップを開催
全編8Kロケ撮影による映像素材による
ダイレクト編集をデモ 4K生中継現場を再現し
マルチカム編集も




パナソニック(株) / パナソニックシステムソリューションズジャパン(株) 2019.11.13 UP
LIVE IPの各種ソリューションを展示
次世代 IT/IP プラットフォームによる
スポーツ中継デモ実施




(株)NHKテクノロジー 2019.12.10 UP
8K LIVE STREAMING SYSTEMを出展




(株)アイ・ディ・ケイ 2019.12.10 UP
オーディオアンプ搭載スイッチャー
「MSD-701AMP」、AVC 統合型システム
「IP-NINJAR」シリーズ AV OVER IP」等を出展



アマゾン ウェブ サービス ジャパン(株) 2019.12.10 UP
クラウドベースのメディアソリューションと
最先端技術 メディア事業のワークロードを
サポートする AWS メディアサービスを紹介



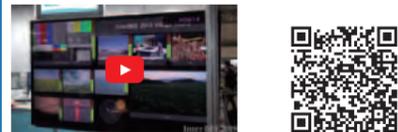
(株)ナックイメージテクノロジー 2019.12.10 UP
放送・映画・イベント用「4K REALTIME xR」、
「Reality」 StyleKit」等を出展



東芝インフラシステムズ(株) 2019.12.10 UP
次世代送出システム VIDEOScore テレビ送信機/
リモコン装置を紹介



(株)ヴィレッジアイランド 2019.12.11 UP
ST-2110 対応のマルチビューワー「FlexViewer」、
TICO コンバータ「VICO-4L」などを出展



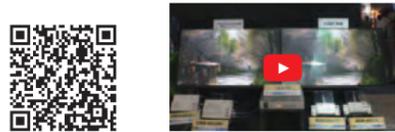
AJA Video 2019.12.11 UP
マルチチャンネル H.264 HD/SD レコーダー &
プレイヤー「Ki Pro GO」、
H.264 収録 & 配信デバイス「HELO」を出展



(株)アイ・ディー・エクス 2019.12.10 UP
マイクロサイズハイレートバッテリー
「Imicro-150/Imicro-98」、
ワイヤレスビデオ伝送システム「CW-1dx」を出展



イメージクス(株) 2019.12.10 UP
4K HDMI 同軸転送「IMG.Link」、
4K HDMI Media over ipシステム
「Nex-Smart」を出展



ビジュアル・グラフィックス(株) 2019.12.10 UP
映像編集ネットワーク構築に最適な
NAS システム Editshare「XStreamEFS」を紹介



富士フィルム(株) 2019.12.10 UP
世界初 AF 対応の 4 K 長焦点放送用レンズ
「UA107x8.4AF」を出展



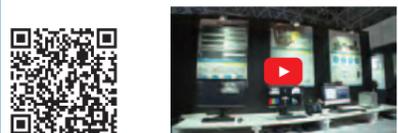
(株)エーディテック 2019.12.11 UP
12G-SDI 対応 4K 超ウルトラ HD 液晶パネル搭載
業務用マルチメディアディスプレイを出展



ANGELBIRD 2019.12.11 UP
オーストリア発のプロフェッショナル用
記録メディア・ブランド「AV PRO Cfexpress」
「AV PRO Cfexpress XT」を出展



(株)エヌジーシー 2019.12.10 UP
Autodesk Flame を中心とした
8K 編集ワークフローを出展



(株)タケナカ / (株)シムディレクト 2019.12.10 UP
Vtuber を起用した
スペシャルライブステージを開催



ブラックマジックデザイン(株) 2019.12.10 UP
低価格のライブプロダクションスイッチャー
「ATEM Mini」を出展



富士通(株) 2019.12.10 UP
映像収集・蓄積・配信ソフトウェア
Futureye II「Video Caster IP Switcher」等を紹介



(株)エレクトリ 2019.12.11 UP
「INCITE プレゼンテーションスイッチャー」を出展



ATENジャパン(株) 2019.12.11 UP
ポータブルライブストリーミング AV ミキサー
「UC9020」、多目的マルチワンプレゼンテーション
スイッチ「VP1421」等を出展



(株)シグマ 2019.12.10 UP
フルサイズミラーレス一眼カメラ fp、
新ラインアップ「FF Classic Prime Line」、
PL-L マウントコンバーター「SIGMA MOUNT
CONVERTER MC-31」を展示



カリナシステム(株) 2019.12.10 UP
時差編集に対応したカット編集ソフトウェア
「ClipCutter」等を出展



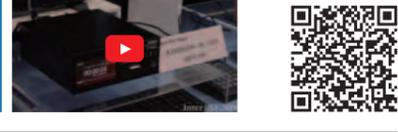
(株)ラムダシステムズ 2019.12.10 UP
テロップの在り方を変える
仮想化ソリューションを紹介



(株)JVCケンウッド 2019.12.11 UP
AWS を用いた高効率制作ワークフローをデモ
「コネクティッドカムスタジオ」
「クラウドエディッドシステム」等を提案



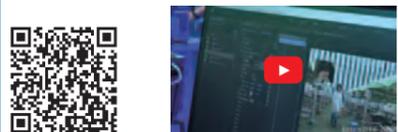
(株)オンテック 2019.12.11 UP
4K 出力対応のマルチファイルプレーヤー
「KAMELEON 4K UHD」(MFP-550)を出展



Backstage Equipment, Inc. 2019.12.11 UP
撮影機材運搬用カート
「Magliner Self Stabilizing C-Stand Carts」等を
出展



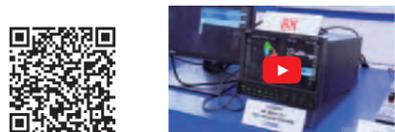
3MIM(株) / (株)ねこじゃらし / (株)モルフォ 2019.12.10 UP
自動リアクションワイプ「REACTION Tracker」、
マスク自動抽出システム「FACE Target」を出展



キヤノン(株) / キヤノンマーケティングジャパン(株) 2019.12.10 UP
デジタルシネマカメラ
「CINEMA EOS C500 Mark II」等を出展



リーダー電子(株) 2019.12.10 UP
8K 波形モニター「LV5900」等を出展



(株)NKL 2019.12.11 UP
小型テレスコピッククレーン
「Servicevision 社・Scorpio 10」を出展



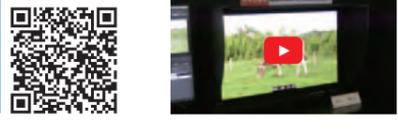
(株)ケンコープロフェッショナルイメージング 2019.12.11 UP
コンパクトな V マウントモバイルバッテリー
「FXLION の NANO ONE (ナノワン)」を出展



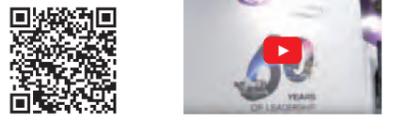
Cartoni SpA 2019.12.11 UP
各種フレイドヘッド及びペダスタル
「MAXIMA シリーズ」、ジブ「jibo」、
三脚その他アクセサリ類を紹介



EIZO(株) 2019.12.10 UP
カラーマネージメントモニター
「ColorEdge PROMINENCE CG3145-B5」
「ColorEdge CG319X」を出展したほか、
開発中の HDR リファレンスモニターを参考出展



グラスバレー(株) 2019.12.10 UP
Video over IP によるリモートプロダクションから
HDR 制作など、日本開発の編集システム
EDIUS と Rio の最新バージョンを展示



ローランド(株) 2019.12.10 UP
4K 対応ビデオ・スイッチャー「V-600UHD」、
オールイン・ワン AV ミキサー「VR-50HDmk 2」を
出展



(株)アスク / (株)ディストーム 2019.12.11 UP
米 NewTek 社が推進する
IP 伝送テクノロジー NDI を利用した
ソリューションや製品を紹介



(株)コスミックエンジニアリング 2019.12.11 UP
リサーチユーマタ「Ljm3a-12G-3G」、
コンパクトルーティングスイッチャー「gen」を出展



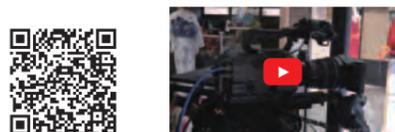
Grip Factory Munich GmbH 2019.12.11 UP
「GF プリモドリー」、「GF クアッドドリー」、
「GF テレジブ」を出展



NEC 2019.12.10 UP
SDI システムと同等のスイッチング精度を持つ
IP・ソフトマスターシステムを紹介



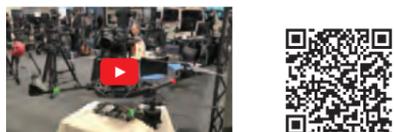
ソニー(株) / ソニービジネスソリューション 2019.12.10 UP
スタジオ大型カメラ「HDC-5000」や、
XDCAM メモリーカムコーダー「FX9」等を出展



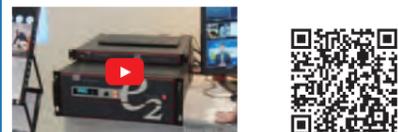
池上通信機(株) 2019.12.10 UP
4K/HD マルチパーパスカメラ「UHL-43」、
4K/HD マルチフォーマット LCD マスターモニタ
「HQLM-3125X」等を出展



(株)イデオモーターロボティクス 2019.12.11 UP
産業用大型ドローン「ALTA X」を出展



(株)テクノハウス 2019.12.11 UP
Dante 対応オーディオ
インターフェース「AVN DIO シリーズ」を出展



TVU Networks 2019.12.11 UP
無線によるポータブルタイプの
映像伝送システム TVU One V3 を出展



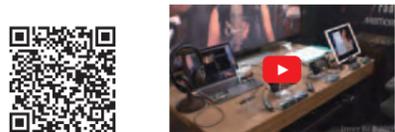
ヴァイテックプロダクションソリューションズ(株) 2019.12.11 UP
三脚「Flowtech 100」を出展



デジキャスト合同会社 2019.12.11 UP
ROSS Video (ロスビデオ) 製品による
リッチなグラフィックスを用いた
eスポーツソリューションを出展



メモリーテック(株)/ラディウス(株) 2019.12.11 UP
4Kハイレゾストリーミングアプリ「NeSTREAM」や、
コンテンツ管理システム「カレイダーク」、
制作管理ツール「カレイダレビュー」を出展



(株)昭特製作所 2019.12.11 UP
無人化ロボティクス撮影システム「SmartPed」、
ENG/EFP用三脚システム「SX200」「SX260」を出展



ICT / クロスメディア

ICT / Cross-media

一般社団法人IPTVフォーラム 2019.12.12 UP
テレビ放送とWEBコンテンツを連携するサービス
「ハイコネ」を紹介



エーティ コミュニケーションズ(株) 2019.12.11 UP
「Satcube Ku」ポータブル型
ブロードバンド衛星端末を出展



(株)ニコシステム 2019.12.11 UP
自動追尾撮影「POLYOTION CHAT」を出展



(株)ユニテックス 2019.12.11 UP
データの保存と活用を可能とする
トータルストレージソリューションを紹介



平和精機工業(株) 2019.12.11 UP
新製品の三脚システム「QD」シリーズ等を出展



ライムライト・ネットワークス・ジャパン(株) 2019.11.01 UP
世界中どこでも1秒以内の遅延でライブ配信が
できる「Limelight Realtime Streaming」デモと、
国内スポーツ観戦・視聴動向に関する
調査結果を紹介



日本サムスン(株) 2019.12.12 UP
Samsung SSD「860 EVO M.2」
「Portable SSD T5」「860 PRO」等を出展



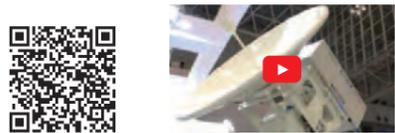
クボテック(株) 2019.12.11 UP
IP公衆回線網の
伝送用IPエンコーダ / IPデコーダを出展



ビデオトロン(株) 2019.12.11 UP
REF入力付き70形筐体
10モジュール「Vbus-70V2」、
12G対応32x32マトリックススイッチャー
「MTX-70U-3232」を出展



(株)加藤電気工業所 2019.12.11 UP
KP-0310A(0.6m_可搬回転装置) 等を出展



(株)朋栄 2019.12.11 UP
SDI/IPの混在利用を可能にするビデオサーバー
MBP-1000VSシリーズ、
スイッチャー HVS-6000、等を出展



INISOFT JAPAN 合同会社 2019.11.06 UP
韓国で5Gライブ配信の実績を持つ映像配信の
最新ソリューションを出展 クラウドベースの
エンコーダ「VidCoder」やマルチアングル対応の
配信サービス「VidView」をデモ



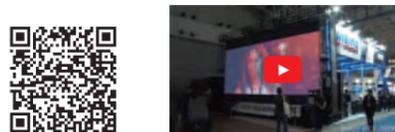
日本ヒューレット・パッカード(株) 2019.12.12 UP
メディアアセット統合管理プラットフォーム
「HPE Media Workflow Master」を出展



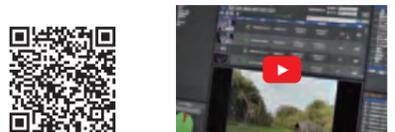
クロスイメージング(株) 2019.12.11 UP
放送メディア向け
気象防災情報作画送出システム
「Media Voice Station」等を出展



ヒビノクロマテックDiv. 2019.12.11 UP
HDR対応LEDディスプレイシステム
「Chroma Vision」を出展



共信コミュニケーションズ(株) 2019.12.11 UP
AIによる動画解析機能を搭載した
コンテンツ管理システム「DaAlps」を出展



(株)アスカ 2019.12.11 UP
ネット同時配信機器
4K/HD サイマルAV ファイル
「AVR-4200」等を出展



(株)アトラクター 2019.11.08 UP
放送波を使ってデータを配信する
「ナローキャスト放送」のソリューションをデモ、
災害時に携帯電話の電波が途切れたときも
スマホに自治体から避難所の住民に情報を配信



日本マイクロソフト(株) 2019.12.12 UP
クラウド サービスの集合体
「Microsoft Azure」を紹介



サロンフィルムズ香港 2019.12.11 UP
シネマ用低価格8Kカメラ「Z CAM」、
小型ライト「NAN LITE」を参考出展



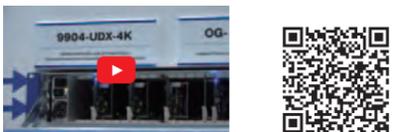
(株)フォトロン 2019.12.11 UP
EVS、Avid、Telestreamによる
収録～編集～パッケージングまでの
ワークフローを紹介
業務効率化を実現する制作ワークフローを提案



銀一 2019.12.11 UP
STEDICAM M-2 を出展



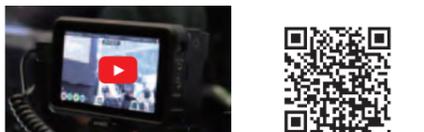
伊藤忠ケーブルシステム(株) 2019.12.13 UP
4K SDR/HDR クロスコンバータ
「9904-UDX-4K」を出展



エムアイシー・アソシエーツ(株) 2019.11.08 UP
映像制作現場のストレージの悩みを解決する
Tiger Technology 社の
仮想ストレージソリューションをデモ



ATOMOS(株) 2019.12.12 UP
300nit/Dolby Vision 対応「SHOGUN 7」、
一眼レフカメラ HDMI RAW 出力対応「NINJA V」
最新バージョンを出展



ジャパンマテリアル(株) 2019.12.11 UP
「Matrox Monarch EDGE」等、
最新規格に対応した製品を数多く展示



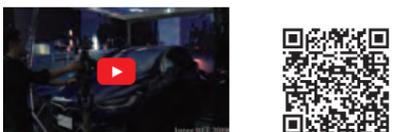
(株)メイコー 2019.12.11 UP
「ビデオウォールコントローラ」を出展



三信電気(株) 2019.12.11 UP
モバイル中継装置「LU610」、
拡張アンテナ「Xtender」等を出展



セカンドステージ(株) 2019.12.13 UP
LEDディスプレイを使った再撮影システム。
ドルビーアトモスを使ったライブビューイングをデモ。



(株)フェアウェイ 2019.12.12 UP
拠点間通信サービス「ixBee」を出展



アリスネットワークスジャパン合同会社 2019.12.12 UP
ARISTA 7280R シリーズ・
ユニバーサル・リーフ (Leaf) スイッチ等を出展



タックシステム(株) 2019.12.11 UP
DirectOut Technologies 社製
PRODIGY.MC 等を出展



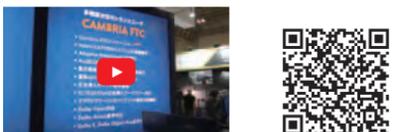
(株)メディア・ガーデン/国際照明(株)/(株)ナックイメージテック/ロジ 2019.12.11 UP
「Free Style 2」「TITAN X2」を出展



三友(株) 2019.12.11 UP
新作シネマレンズ
「LEITZ PRIME」「LEITZ ZOOM」等を出展



カペラシステムズ 2019.12.13 UP
スケラブルな次世代トランスコーダー
および業務用ライブエンコーダー一式
「Cambria Live シリーズ」を出展



INTER BEE FORUM

11月13日(水)

国際会議場2F コンベンションホールA

KN-131 基調講演 1 日英同時通訳付

Inter BEE 2019 Opening & Keynote

Opening Session

主催あいさつ：一般社団法人電子情報技術産業協会
来賓あいさつ：総務省、経済産業省
後援団体来賓、来賓等の参加によるフォトセッション

Keynote Speech:Toward 2020

放送イノベーションを活用した最高のスポーツコンテンツの提供

全米放送事業者協会 (NAB) 会長
ゴードン・スミス氏



他産業との融合によるスポーツの未来

スポーツ庁長官
鈴木 大地氏



Beyond 2020放送技術の進化は止まらない

日本放送協会 放送技術局 局長
緒方 一貴氏



Tokyo2020の映像制作

オリンピック放送機構 (OBS)
最高技術責任者 (CTO)
ソチリス・サラモリス氏



KN-132 INTER BEE CONNECTED 基調講演 手話通訳付

スポーツ中継のフィロソフィー ~ TOKYO 2020に向けて

株式会社WOWOW 代表取締役社長
田中 晃氏

株式会社売野目人 代表取締役社長
今村 司氏

日本テレビ放送網株式会社
編成局長
岡部 智洋氏

日本テレビ放送網株式会社
スポーツ局 ディレクター
望月 浩平氏

株式会社WOWOW
IPC & WOWOW/オリンピックキッズメタデータサービス
[WHO I AM] エグゼクティブ・プロデューサー
口垣内 徹氏

長野/オリンピック金メダリスト
IPC & IOC 教育委員会委員
マセソン 美季氏

KN-133 基調講演 2

デジタルテクノロジーでさらに輝く これからのスポーツ

元ログビー-日本代表主司
株式会社HIRAKU 代表取締役
廣瀬 俊朗氏

米アンソニー エンタテインメント グループ (AEG)
アジア担当エグゼクティブ
株式会社長瀬日本代表
ワンシントン南立大学客員教授
金沢工業大学教授
北谷 賢司氏

スポーツブランディングジャパン株式会社 代表取締役社長
(公財)東京オリンピックパブリックビューイング大会組織委員会
株式会社HAKU エグゼクティブ・プロデューサー
イーシー・プロダクション株式会社 取締役
日置 貴之氏

株式会社ドーム 取締役投資開発CSO
東京大学アメリカンフットボール部 監督
筑波大学客員教授
三沢 英生氏

日本テレビ放送網株式会社
スポーツ局スポーツ事業推進部
(兼)社長室企画部 部長
佐野 徹氏

国際会議場2F 国際会議室

SP-131 特別講演 1

待ったなしのラジオ経営 ~音声メディア市場から考える~ 経営、営業、編成、制作、技術すべてに問う

パネリスト
株式会社電通 電通研究所 フェロー
電話メディアイノベーション部 部長
奥 律哉氏

公益社団法人日本アディティブ・メディア協会
理事 兼 理事
株式会社radiko 代表取締役社長
奥 律哉氏

株式会社radiko 代表取締役社長
村井 純氏

株式会社博報堂DMMメディアパートナーズ
ラジオ局 局長
大木 秀幸氏

株式会社グライダー・アンソニー
取締役社長
荒川 徹氏

上智大学 文学部
新聞学科 教授
音 好宏氏

株式会社ニューメディア
出版局長
吉井 勇氏

SP-132 特別講演 2 日英同時通訳付

アドバンスド イメージング ユニバーシティ 2019

VRにおける人間工学
PoC最新事例
エンタテインメントテクノロジー 2020
ハリウッドの次世代への展望
ホログラフィックディスプレイと
ライトフィールドラボ

SP-133 特別講演 3 日英同時通訳付

放送業界におけるMicrosoft AzureとAIの活用事例

Microsoft Corporation
Global Partnerships, Media & Communications Director
George Hawkey氏

日本マイクロソフト株式会社
データ&クラウドAI/アーキテクチャ技術本部
シニアクラウドソリューションアーキテクト
嶋山 大有氏

SP-134 特別講演 4 日英同時通訳付

グローバルメディアビジネスと変化のテクノロジードライバー

IABM
Head of Insight & Analysis
ロレンツォ・ザンニ氏

国際会議場1F 104会議室

TC-131 テクニカルセッション1

4K/HDR と2K/SDR の相互変換と運用を徹底討論

パネリスト
ソニーホームエンタテインメント&
サウンドプロダクション株式会社
TV事業本部 技術開発室 室長 兼 教授
小倉 敏之氏

日本テレビ放送網株式会社
技術統括局 技術開発部 部長
甲斐 創氏

株式会社キュー・テック
映像部 第一編成グループ チーフテクニカル
アドバイザー
今塚 誠氏

株式会社テレビ東京
IT推進局 配信技術部
兼 技術制作局 技術センター 主事
北村 宏一氏

株式会社JVCケンウッド・ビデオテック
取締役 CTO
森 俊文氏

株式会社ニューメディア
出版局長
吉井 勇氏

国際会議場2F 201会議室

TC-132 テクニカルセッション2

ASIAGRAPH2019 創賞・匠賞授賞式・トークセッション

創賞受賞 千住 明氏
匠賞受賞 中野 信子氏
ASIAGRAPH代表 河川 洋一郎氏

TC-133 テクニカルセッション3

SIGGRAPH招聘特別セミナーに寄り添うCG/VFXによる映像表現

ACM SIGGRAPH
External Relations Committee Chair
Diana Arellano氏

日本放送協会
放送技術センター 番組制作部 部長
VFXスーパーバイザー
松永 孝治氏

メディア・テクノロジー
コンサルタント
為ヶ谷 秀一氏

TC-134 テクニカルセッション4

神経美学と対話するデジタルコンテンツの未来

メディアコミュニケーションにおける新たな枠組みと可能性を展望する
ユニバーシティ校シニアリサーチフェロー
石津 智大氏

早稲田大学 理工学術院 基礎理工学部
表現工学科 教授 博士 (人間科学)
河合 隆史氏

11月14日(木)

国際会議場2F コンベンションホールA

KN-141 基調講演 3

テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向

基調講演 放送・通信連携による放送コンテンツ 振興政策の最新動向

一般社団法人IPTVフォーラム 代表理事
村井 純氏

総務省 情報流通行政局
情報通信作品課 課長
三島 由佳氏

特別企画 テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向

NHK 放送文化研究所
メディア研究部 研究主幹
村上 圭子氏

NHK エンジン・システム
先端開発研究部 上級研究員
武智 秀氏

一般社団法人IPTVフォーラム
広聴普及委員会 主席
伊藤 正史氏

テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向

一般社団法人IPTVフォーラム 代表理事
村井 純氏

KN-142 INTER BEE IGNITION 基調講演

映像の外側で、すべてがメディア化する時代の アクティビスト達

スピーカー・パネリスト
農学農工大学
大学院メディアデザイン研究科 教授
中村 伊知哉氏

株式会社Heart Catch
代表取締役
西村 真里子氏

オビニオンメディアmilieu編集長
塩谷 舞氏

ライゾマティクス・アーキテクチャー 主宰
齋藤 精一氏

株式会社スピーディ 社長
ブランドコンサルタント
福田 淳氏

経済産業省
コンテンツ産業課長
高木 美香氏

株式会社NITTVコム
5Gイノベーション推進室 担当部長
油川 雄司氏

KN-143 基調講演 4

5Gセッション2019

5Gのリアルと未来

5Gの可能性と展望、KDDIの取組み

映像と5Gの可能性

楽天が5Gでめざすもの

KDDI株式会社
技術統括本部 モバイル技術本部 次世代ネットワーク開発部 エキスパート
酒井 清一郎氏

ソフトバンク株式会社
先端事業企画部 部長
船吉 秀人氏

楽天モバイル株式会社
ネットワーク本部技術統括部 インフラ開発担当部長
久保田 啓一氏

同時開催

全映協フォーラム 2019 in 幕張

- ▶ フォーラム：国際会議場1階 [104]
- ▶ 大懇親会：国際会議場1階 [105]
- ▶ 主催：一般社団法人 全国地域映像団体協議会
- ▶ URL: www.zeneikyo.jp

13:30 ▶ 13:40	開会挨拶
13:40 ▶ 14:15	経済産業省プレゼンテーション
14:15 ▶ 14:45	総務省プレゼンテーション
14:45 ▶ 15:00	休憩
15:00 ▶ 15:40	日本放送テレビ技術協会プレゼンテーション
15:40 ▶ 16:00	休憩
16:00 ▶ 17:45	全映協フォーラム2019 結果発表・表彰式
18:00 ▶ 19:30	大懇親会 (会費6,500円)

国際会議場2F 国際会議室

SP-141 特別講演 5 日英同時通訳付

スポーツ映像制作の最新技術

Sports Video Group 編集長
ケン・ケルシュパウマー氏

オリンピック放送機構 (OBS)
最高技術責任者 (CTO)
ソチリス・サラモリス氏

NHK放送技術局
報道技術センター 中継部
TPグループ 担当部長
齋 哲也氏

キャノン株式会社
イメージソリューション事業本部
SV事業推進センター 上席
伊達 厚氏

オリンピック放送機構 (OBS)
テクニカルマネージャー
宮本 孝氏

オリンピック放送機構 (OBS)
IBC Planning & Operations Manager
Lavinia Marafante氏

SP-142 特別講演 6 日英同時通訳付

メディア業界におけるクラウド活用最新事例2019

クラウドが可能にする メディア業界のイノベーション

アマゾンウェブサービス
エンタープライズ・ストラテジスト
イシット・ヴァシラジャーニ氏

フジテレビのCloud Strategy ~ Now&Future ~

株式会社フジテレビジョン
技術局 計画課 デスク担当部長
金森 健彦氏

サーバレスアーキテクチャによる
有料ライブ配信サービスの構築

U-NEXTのマルチCDN戦略における
CloudFrontの活用事例と、自社開発ファイル
転送システム「Snowpump」の紹介

北海道テレビ放送株式会社 (HTB)
コンテンツビジネス局 ネットデジタル事業部
三浦 一樹氏

株式会社U-NEXT
事業企画 担当部長
柿元 崇利氏

AlexaによるTV視聴の未来

アマゾンウェブサービスジャパン株式会社
アレクササービス統括部 技術本部 本部/PR
ソリューションアーキテクト
北迫 清訓氏

クラウドメディアワークロード最新事例

アマゾンウェブサービスジャパン株式会社
ソリューションアーキテクト
金目 健二氏

SP-143 特別講演 7

人間中心のAI社会の原則と放送メディアの役割

対談者
日本放送協会 専務理事 技研長
児野 昭彦氏

モデレーター
東京大学大学院 情報学環 教授
須藤 修氏

国立研究開発法人
情報通信研究機構
ユニバーサルコミュニケーション
研究科 研究員
木 豊 氏

日本テレビ放送網株式会社
技術統括局 デジタルコンテンツ制作部
兼 技術統括局 部長
川上 皓平氏

特定非営利活動法人
エフエム和歌山
クロスメディア部長
山口 誠二氏

NHK放送技術研究所
スマートプロダクション研究部
上級研究員
望月 貴裕氏

株式会社ニューメディア
出版局長
吉井 勇氏

国際会議場2F 201会議室

TC-142 テクニカルセッション6 日英逐次通訳付

最新の音声技術と次世代の音声制作

Danteの運用例と最新情報

株式会社ヤマハミュージックジャパン
PA営業部 マーケティング課 主事
石橋 健児氏

Moving to IP

カルレックオーディオ社
製品管理 部長
ヘンリー・グッドマン氏

株式会社メディアインテグレーション
ROCK ON PRO
前田 洋介氏

インテリジェントオーディオテクノロジーを使った、
新しいワークフローと機械学習

株式会社メディアインテグレーション
ROCK ON PRO
前田 洋介氏

izotope, Inc.
エデュケーションディレクター
ジョナサン・ワイナー氏

技術局 設備センター コンテンツ制作システムグループ シニアマネージャー
阿部 健彦氏

TC-143 テクニカルセッション7

ライブサウンドエンジニアのためのオールリクエスト! ~ベーシックから最新テクニックまで、知りたい疑問に答えます~

oshowland
山寺 紀康氏

株式会社スターテック
サウンドエンジニア
廣川 光一氏

有限会社パブリックアドレス
取締役社長
武井 一雄氏

有限会社ティーズベック
代表取締役
橋本 敏邦氏

フリスランズ
サウンドエンジニア
大川 展生氏

有限会社イノベーション
代表
半澤 公一氏

INTER BEE FORUM

11月15日(金)

国際会議場2F コンベンションホールA

KN-151 基調講演 5

IP化する放送技術と導入事例

プレゼンテーション: 送出系のIP化と ネットサービス配信システムとの連携

株式会社フジテレビジョン
技術局 技術開発部 副部長
伊藤 正史 氏

事例報告:

テレ東音楽祭2019における IPリモートプロダクションの取り組み

株式会社テレビ東京
技術局 技術推進部
大崎 雅典 氏

13:00
▼
14:20

ひかりTVのIP技術とそのオペレーション

株式会社NTTぷらら
技術本部ネットワーク管理部 プラットフォーム担当 担当部長
工藤 紀之 氏

AbemaTVの成長とIPプロダクション

株式会社AbemaTV
技術局
近藤 信輝 氏

IP回線ルーターシステムの採用と今後の展望

北海道文化放送株式会社
技術部長
菊谷 康行 氏

[Video over IP]を導入した中継車の製作・運用

株式会社共同テレビジョン
技術センター 制作技術部
川崎 淳 氏

KN-152 INTER BEE CREATIVE 基調講演

日本のクリエイターよ。越境せよ!

世界に誇る日本の技術力・精神力。 今の日本の映像業界に何が 必要か? Powered by Digicon6 Asia

対談者
行定 勲 氏

INTER BEE CREATIVE
フォーラム・ディレクター
結城 崇史 氏



国際会議場2F 国際会議室

SP-152 特別講演 9

日英同時通訳付

最先端をいくIP Production Infrastructures

スイス・チューリッヒ tpc社の
全面IP化したSports &
Technology Centerについて
チーフ・テクノロジー・オフィサー
アンドレアス・ラットマン 氏

ドイツ・ミュンヘン Plaza Mediaの
全面IP化された設備概要
ラバ社
アジア大洋州担当営業部長
サイモン・ロアーズ 氏

モデレーター
株式会社テレビ朝日
技術本部 シニアマネージャー
阿部 健彦 氏

SP-153 特別講演 10

CDNセッション2019

同時配信&2020に向けた セキュリティ対策とは

アカマイ・テクノロジー合同会社
ソリューションエンジニア部 ソリューションエンジニア
松野 彦彦 氏

動画配信との融合が進むCDN Amazon CloudFront

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社
ソリューション技術部 ソリューションアーキテクト
中谷 喜久 氏

JOCDN これまでの歩みと これからの歩み

JOCDN株式会社 取締役
福田 一則 氏

ネット同時配信時代に求められる QoEとその対策について

株式会社Jストリーム 配信事業統括本部
プロダクション推進部長
浅野 大介 氏

国際会議場2F 201会議室

TC-151 テクニカルセッション 8

緊急企画:災害とメディア2019 ~気候変動の時代に何をどう伝えるか

パネリスト

NBS長野放送
編成局長兼編成部長
早川 英治 氏

株式会社皇朝中央テレビ
メディアデザイン部 部長
村上 雅信 氏

千葉テレビ放送株式会社
業務事業部
早坂 豪 氏

メディアコンサルタント
境 治 氏

TC-152 テクニカルセッション 9

魅せる4K8Kコンテンツ制作・サービスの「いま」と進化へ期待

地方から世界へ!4K8Kコンテンツで魅せる カンテレのモノづくり

表現空間を拡張する未来のメディア技術 「ダイバーシジョン」

関西テレビ放送株式会社
制作技術局 制作技術センター 主任
清水 慎恭 氏

放送技術研究所 空間表現メディア研究部 部長
日本放送協会
三科 智之 氏

旧作映画の「4Kリマスター」制作 ~フィルム映像の「豊かさ」と「難しさ」~

4K8Kメディアは美術セット・メイクを どう進化させたか?

株式会社IMAGICA Lab.
フィルム・アーカイブ事業本部 プロデュースグループ
水戸 遼平 氏

デザインセンター-映像デザイン部 専任部長
日本放送協会
三好 正木 氏

モデレーター
女子美術大学
非常勤講師
國重 静司 氏

TC-153 テクニカルセッション 10

デジタルメディアの進化と国際標準 ~伝送・蓄積のための圧縮から利活用へ~

映像メディアの符号化・標準化・活用

オーディオ情報圧縮の歴史とAR/VR対応

三菱電機株式会社
通信システム事業本部 技術顧問
浅井 光太郎 氏

首都大学東京
システムデザイン学部客員教授
杉山 昭彦 氏

モデレーター
慶応大学
理工学部 教授 工学博士
長谷 智弘 氏

コンファレンススポンサーセッション

会場:国際会議場1階[103][104]

CS1-132 超低遅延かつ安定した動画配信を今すぐ実現!
世界大手の放送局・OTTサービスプロバイダーと
LiveParkの事例から見る動画配信における課題とその克服方法

ライブライト・ネットワークス VP、製品戦略
スティーブ・ミラー・ジョーンズ 氏

株式会社LivePark
プロダクトマネージャー
小野寺 正実 氏

CS1-133 放送システムのIP化のための技術要素
~マルチキャスト、同期、自動化、可視化、ネットワークデザイン詳説~

アリストネットワークスジャパン合同会社
技術本部 本部長
兵頭 弘一 氏

セイコーソリューションズ株式会社
ネットワークソリューション技術統括部
NS開発部 NS企画開発課 担当課長
橋本 直也 氏

CS2-133 AIと放送の未来
~AIを活用した様々な放送事例とSpecteeが見据える
未来の放送のカタチ~

株式会社Spectee 代表取締役 CEO
村上 建治郎 氏

CS1-141 Haivision, Microsoft, Avidによる
放送プロダクションにおける
クラウドとSRT

アドビテクノロジー株式会社
ソリューションデザイン
&コンサルティンググループ
追屋 稔 氏

日本マイクロソフト株式会社
パートナー事業本部
パートナー本部
クラウド・キヤノン部
クワック・クラウド・キヤノン部
大川 高志 氏

CS1-142 Web3Dでメディア表現をもっと豊かに
-PlayCanvasで作る次世代Web表現-

PlayCanvas運営事務局
エンジニアリスト
宗形 修司 氏

PlayCanvas運営事務局
エンジニアリスト
城戸 雄大 氏

CS1-143 SDI技術者のためのIP講座

PlayCanvas運営事務局
エンジニアリスト
羽賀 流登 氏

CS1-151 自動字幕はどうあるべきか?

パネリスト
情報流通行政局 地上放送課
納富 史仁 氏

マルチスクリーン放送研究会
関西テレビ放送株式会社
坂梨 裕基 氏

字幕付きCM普及推進協議会
筑波技術大学
名誉教授
須田 裕之 氏

モデレーター
ヤマハ株式会社
SoundUD推進コンソーシアム
森口 翔太 氏

CS2-151 東映アニメーションが語る!システム管理者に贈る
ストレージ今昔物語~徹夜なんてもうイヤだ!
聖闘士星矢やプリキュアを支えるストレージ基盤

東映アニメーション株式会社
制作本部 デジタル設備部
テクノロジー開発推進課 課長
兼 経営管理本部 情報システム部 課長
山下 浩輔 氏

Dell EMC
UDS事業本部 SE部
システム エンジニア
アドバイザリー
天野 敏士 氏

CS1-152 欧米の映像配信システムの最新情報とトレンド最前線
~リオからニューヨークまで アムステルダム発
世界標準ストリーミング技術~

株式会社オルプロダクション CEO
北沢 至 氏

Unified Streaming社(オランダ)CEO
Dirk Griffioen 氏

CS2-152 世界初のMQA音声を聞いた
映像コンテンツ配信デモ

MQA LTD. CTO(最高技術責任者)
ポプ・スチュアート 氏

同時開催

第56回民放技術報告会

会場:国際会議場3階 主催・企画:一般社団法人日本民間放送連盟(JBA)

第1会場[301]	第2会場[302]	第3会場[303]
11月13日(水) 10:30▶17:35 制作技術部門	10:30▶17:10 送出部門	10:30▶17:10 ファイルベース部門
11月14日(木) 10:30▶12:10 回線・伝送部門	10:30▶12:10 画像技術部門	10:30▶12:35 送信部門
11月15日(金) 10:30▶16:20 制作技術部門	10:30▶12:10 画像技術部門	10:30▶16:45 ラジオ・音声部門
	13:00▶16:20 データ放送・デジタルサービス部門	

INTER BEE IP PAVILION

ニッポンのIPライブ伝送制作技術デモ インターオペラビリティの現在

IP実機接続デモ 3つのテーマで実機デモ展示

会場:展示ホール3[3205/3206]

SMPTE ST 2110(Video・Audio)インターオペラビリティ

アスク/ディストーム、Clear-Com、セイコーソリューションズ株式会社、ソニービジネスソリューション株式会社、日本電信電話株式会社、ネットワンシステムズ株式会社、株式会社朋栄、松田通商株式会社、Matrox/ジャパンマテリアル株式会社、メラノックステクノロジーズ/マクニカ、リーダー電子株式会社

SMPTE ST 2110-30+DANTE(Audio)インターオペラビリティ

タスカム/ティアック株式会社、株式会社タムラ製作所、株式会社ヤマハミュージックジャパン

SMPTE ST 2022-6インターオペラビリティ

エイチ・シー・ネットワークス株式会社、NEC、株式会社美蓉ビデオエージェンシー、株式会社朋栄、株式会社メディアリンクス

協力
AIMS (Alliance for IP Media Solutions)、アラクサラネットワークス株式会社、バンドウィットコーポレーション日本支社
4K/HD対応フルIP中継車
協力:奈良テレビ放送株式会社

リレー技術セミナー

テーマ: IPライブ伝送+関連技術、導入事例など

会場:展示ホール3[3214]

11月13日(水)	講演テーマ/会社名
13:00▶13:20	IPネットワークの基礎 NHK放送技術研究所-伝送システム研究部 小山 智史 氏
13:30▶13:50	SMPTEの標準化動向 SMPTEアジア太平洋リージョンガバナー / NEC 放送・メディア事業部 菅原 正幸 氏
14:00▶14:20	放送システムとPTP(基本編) リーダー電子-技術開発部 野崎 稔雄 氏
14:30▶14:50	放送システムとPTP(応用編) セイコーソリューションズ 長谷川 幹人 氏
15:00▶15:20	NMOSの概要と最新動向 AMWA Board Member/Sony IP&S 櫻木 僚一 氏
15:30▶15:50	IP番組制作システムの監視について考える NHK放送技術研究所-伝送システム研究部 小山 智史 氏
16:00▶16:20	SDNで実現するIP化 メラノックステクノロジーズジャパン・テクノロジーエキスパート 田口 慎 氏
16:30▶16:50	NDI* 新バージョン4.0とST 2110との架け橋 ディストーム・ビジネスデベロップメント・フェルディナンド・ストアー 氏

11月14日(木)	講演テーマ/会社名
11:30▶11:50	【事例:スカパー】スカパー 新送出設備におけるIPの導入 -メディア技術本部放送システム部 石黒 剛 氏
12:00▶12:20	【事例:奈良テレビ】フルIP 4K 制作サブ/4K 中継車システム ~設備概要・IPシステム導入から運用まで~ 奈良テレビ放送・クロスメディア局 浅井 隆士 氏
12:30▶12:50	ST 2110 相互接続検証より NHK-放送技術総務部 北島 正司 氏
13:00▶13:20	IPライブ伝送システム構築の解説 ソニービジネスソリューション・マーケティング部 小貝 肇 氏
13:30▶13:50	SMPTEの標準化動向 SMPTEアジア太平洋リージョンガバナー / NEC 放送・メディア事業部 菅原 正幸 氏
14:00▶14:20	放送システムとPTP(基本編) リーダー電子-技術開発部 野崎 稔雄 氏
14:30▶14:50	放送システムとPTP(応用編) セイコーソリューションズ 長谷川 幹人 氏
15:00▶15:20	RPTP(PTP over WAN) 次世代のPTP 提案 メディアリンクス、ネットワークアディクションズ、FNETS、IJ
15:30▶15:50	NMOSの概要と最新動向 AMWA Board Member/Sony IP&S 櫻木 僚一 氏
16:00▶16:20	SDNで実現するIP化 メラノックステクノロジーズジャパン・テクノロジーエキスパート 田口 慎 氏
16:30▶16:50	NDI* 新バージョン4.0とST 2110との架け橋 ディストーム・ビジネスデベロップメント・フェルディナンド・ストアー 氏

11月15日(金)	講演テーマ/会社名
13:00▶13:20	IPネットワークの基礎 NHK放送技術研究所-伝送システム研究部 河原木 政宏 氏
13:30▶13:50	SMPTEの標準化動向 SMPTEアジア太平洋リージョンガバナー / NEC 放送・メディア事業部 菅原 正幸 氏
14:00▶14:20	放送システムとPTP(基本編) リーダー電子-技術開発部 野崎 稔雄 氏
14:30▶14:50	放送システムとPTP(応用編) セイコーソリューションズ 長谷川 幹人 氏
15:00▶15:20	NMOSの概要と最新動向 AMWA Board Member/Sony IP&S 櫻木 僚一 氏
15:30▶15:50	IP番組制作システムの監視について考える NHK放送技術研究所-伝送システム研究部 河原木 政宏 氏
16:00▶16:20	SDNで実現するIP化 メラノックステクノロジーズジャパン・テクノロジーエキスパート 田口 慎 氏

INTER BEE EXPERIENCE

X-Speaker SRスピーカー体験デモ

▶会場: イベントホール
 ▶後援: 公益社団法人日本舞台音響協会、日本舞台音響事業協同組合
 ▶メディアパートナー: Sound & Recording



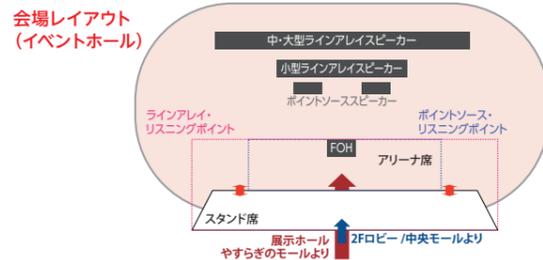
世界規模! 過去最大15ブランド18製品参加

国内最大のSRスピーカー試聴イベントが今年も開催。国内外から多くの注目を集めるこのイベントに、著名15ブランド18製品が参加。過去最大規模でワールドクラスの試聴体験空間を実現しました。

デモスケジュール ※イベントホール開催時間: 13日 10:00開場/19:30閉場、14日 10:00開場/19:50閉場、15日 10:00開場/17:10閉場

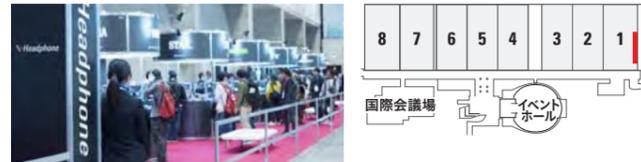
11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)
10:30 d&b audiotechnik	10:30 dBTechnologies	10:30 RCF
11:10 YAMAHA	11:10 NEXO	11:10 ベステックオーディオ株式会社
11:50 NEXO	11:50 VUE audiotechnik	11:50 d&b audiotechnik
12:30 CODA KORA AUDIO	12:30 ZEAW	12:30 株式会社マーチンオーディオジャパン
13:20 ボース合同会社	13:10 ボース合同会社	13:10 Turbosound
14:00 ソワイアー株式会社	14:20 d&b audiotechnik	13:50 dBTechnologies
14:40 RAMSA	15:00 YAMAHA	14:30 NEXO
15:20 JBL	15:40 NEXO	15:10 VUE audiotechnik
16:10 RCF	16:20 CODA KORA AUDIO	15:50 ZEAW
16:50 ベステックオーディオ株式会社	17:10 ボース合同会社	16:30 ボース合同会社
17:30 d&b audiotechnik	17:50 ADAMSON	
18:10 株式会社マーチンオーディオジャパン	18:30 RAMSA	
18:50 Turbosound	19:10 JBL	

● ポイントソーススピーカー
 ● 小型ラインアレイスピーカー
 ● 中・大型ラインアレイスピーカー
 機材協力: 株式会社ヤマハミュージックジャパン
 株式会社マーチンオーディオジャパン
 ※各製品の詳細については、INTER BEE ONLINEよりシステム構成がダウンロードできます。
https://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/experience_1.html



X-Headphone | X-Microphone

▶会場: 展示ホール1 (プロオーディオ部門内)



音質実感! 高音質を自由に体験

プロユース製品を自由に試聴できる絶好の機会として定着した、ヘッドフォン/マイク試聴体験展示。この人気企画に多くのブランドが集まって、様々な高品質製品の特長が実感できる場を展開しました。

X-Microphone 製品ブランド/参加企業

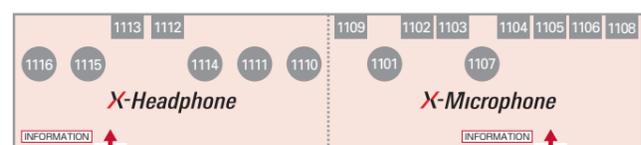
1101	ソニーマーケティング株式会社	SONY
1102	ウェタックス株式会社	UETAX
1103	三研マイクロホン株式会社	sanken
1104	ローランド株式会社	ASTON MICROPHONES
1105	日本テックトラスト株式会社	SCHOEPS Mikrofone
1106	エムアイセブンジャパン株式会社	AUSTRIAN AUDIO
1107	ゼンハイザージャパン株式会社	SENNHEISER NEUMANN, BERLIN
1108	オタリテック株式会社	ROSEL P80 R80 Epland
1109	シユア・ジャパン株式会社	SHURE

X-Headphone 製品ブランド/参加企業

1110	シユア・ジャパン株式会社	SHURE
1111	有限会社スタックス	STAX
1112	リワイアー株式会社	PHONON
1113	城下工業株式会社	SOUNDWARRIOR
1114	株式会社ヤマハミュージックジャパン	YAMAHA
1115	ゼンハイザージャパン株式会社	SENNHEISER NEUMANN, BERLIN
1116	株式会社アユート	ULTRASONE

機材協力: ティアック株式会社 / 株式会社ヤマハミュージックジャパン

会場レイアウト (展示ホール1)



INTER BEE IGNITION

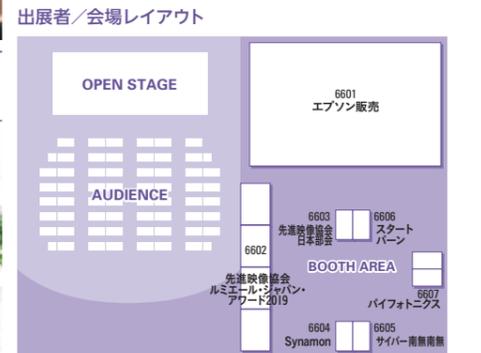
INTER BEE IGNITION 基調講演 ▶会場: 国際会議場 2階 コンベンションホールA

KN-142 映像の外側で、すべてがメディア化する時代のアクティビスト達

基調講演	パネリストディスカッション	ビデオモデレーター
11月14日(木) 13:00-14:30 スピーカー: 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授 中村 伊知哉氏	パネリスト: 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授 中村 伊知哉氏、ライゾマティクス・アーキテクトチャー主宰 齋藤 精一氏、オビニオンメディアmilieu編集長 塩谷 舞氏	株式会社スピーディ社長 福田 淳氏、経済産業省 コンテンツ産業課長 高木 美香氏、株式会社Heart Catch 代表取締役 西村 真里子氏

企画セッション ▶会場: 展示ホール6 IGNITION内オープンステージ

11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)
IG-131 先進映像協会ルミエール・ジャパン・アワード2019表彰式 良質な3D、UHD(4K・8K)、VR作品へ贈られるルミエール・ジャパン・アワードと、当該分野の発展への寄与が期待される取り組みへ贈られるグッドプラクティス・アワードの、今年度の受賞者を表彰・公表いたしました。 ■ 先進映像協会 フッドプラクティス・アワード 2019 本賞 8KVRコンテンツ開発への継続的取り組み 「カナムミの国のアリス」を対象として 株式会社NHKエンタープライズ、株式会社NHKテクノロジーズ ■ 先進映像協会 ルミエール・ジャパン・アワード2019	IG-141 都市をメディア化する ~ case of 深セン&渋谷 ~ テクノロジーの社会実装で生活はどう変わるのか?	IG-151 モビリティエンタテインメント ~ これからの車内空間のあり方 ~
IG-132 教育はデジタルで変わるのか? 変わらないのか?	IG-142 テクノロジーが加速する ライブエンタテインメント最前線 ~ J-LOD採択事業にみる新潮流 ~	IG-152 映像の力で世の中を変える - エプソンの挑戦
IG-133 クラブカルチャー最前線、東京のナイトライフは進化するか?	IG-143 【DCEXPO2019連携企画】 日米最新VR研究紹介	IG-153 パッションテックが新たなメディア・コミュニティの可能性を拓く
IG-134 【オープニング・パーティー】 Beer bash 仕掛け人が語るメディア論	IG-144 【DCEXPO2019連携企画】 東雲めぐトークショー	



INTER BEE CONNECTED

放送と通信の融合を 展示とプレゼンテーションで提案します。

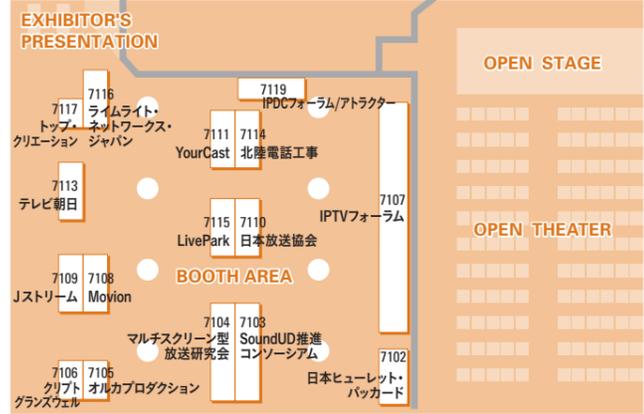
ICTとメディア環境が日々広がり変化するなかで、テレビ放送をはじめとしたメディアコミュニケーションは、これまでにない変革のときを迎えています。放送はどう変わり、ICTはメディアコミュニケーションにどんな可能性を広げるのか。放送とコミュニケーションの最前線から、新しいビジネスモデルを探り発信しました。

出展者プレゼンテーション

▶会場:INTER BEE CONNECTED内 プレゼンコーナー

11月13日 (水)	11:10	欧米シェア急進中の映像配信モデルウェア [Unified Streamingソフトウェア]の紹介と海外事例 (株)オルカプロダクション
	11:40	自動字幕システムの取り組みについて SoundUD推進コンソーシアム
	13:00	Excelで動画の自動履歴 ~働き方改革とモーショングラフィクス~ Movion
	13:30	隣接する広域局・県域局・CATV連携による 低遅延地域映像配信共通基盤の検証報告 (株)Jストリーム
	14:20	グローバルの放送局/OTTプロバイダーが注目する低遅延かつ 高品質なビデオ配信テクノロジーとは? ライムライト・ネットワークス・ジャパン(株)
11月14日 (木)	15:40	ブロックチェーン技術を活用した「NFT」とは、その可能性と現状 クリプトグラウンズウェル(株)
	11:10	ライブ配信の視聴者の実態は? 国内におけるライブ配信に関する意識調査の結果発表 ライムライト・ネットワークス・ジャパン(株)
	11:40	ブロックチェーン技術を活用した「NFT」とは、その可能性と現状 クリプトグラウンズウェル(株)
	13:00	欧米シェア急進中の映像配信モデルウェア [Unified Streamingソフトウェア]の紹介と海外事例 (株)オルカプロダクション
	13:30	自動字幕システムの取り組みについて SoundUD推進コンソーシアム
11月15日 (金)	15:40	Excelで動画の自動履歴 ~働き方改革とモーショングラフィクス~ Movion
	16:10	今、放送局に必要とされているインターネット動画配信とは? (株)Jストリーム
	10:30	自動字幕システムの取り組みについて SoundUD推進コンソーシアム
	11:00	Excelで動画の自動履歴 ~働き方改革とモーショングラフィクス~ Movion
	11:40	グローバルの放送局/OTTプロバイダーが注目する 低遅延かつ高品質なビデオ配信テクノロジーとは? ライムライト・ネットワークス・ジャパン(株)

出展者/会場レイアウト



企画セッション

11月13日(水)	
CN-131	視聴データが想像するテレビ広告の10年後 視聴データの利活用の重要性がますます高まってきています。安全・安心のメディアとしてのデータの取り扱いも重要で、その地固めをしている「今」ですが、その「今」の課題は? そして「10年後の世界」はどうなっているでしょう? 同時にネット企業からみたときの視聴データはどう見えているのか? 視聴データの未来と今を語りました。
モテレーター	青山学院大学 総合文化政策学部 教授 内山 隆氏
パネリスト	ヤフー株式会社 社長室 室長 半田 英智氏 株式会社YourCast 代表取締役社長 三上 進一郎氏 テレビ視聴データ活用検討会 事務局 在京5社視聴データサービス推進会議 主催 (テレビ朝日IoTセンタービデオデータ担当部長) 松瀬 俊一郎氏
CN-132	スポーツ中継のフィロソフィー ~ TOKYO 2020に向けて 国際会議場より中継 セッショントピックは「スポーツ文化の発展とテレビの役割」「日本テレビの『姿勢と準備』~ラグビーW杯成功の裏側」「東京/パラリンピックのレガシーとテレビの役割」となります。
モテレーター	株式会社WOWOW 代表取締役社長 田中 晃氏 株式会社講売巨人軍 代表取締役社長 今村 司氏
パネリスト	日本テレビ放送網株式会社 編成局長 岡部 智洋氏 日本テレビ放送網株式会社 スポーツ局 ディレクター 望月 浩平氏 株式会社WOWOW PC & WOWOW(テレビドキュメントシリーズ [WHO]AM) エグゼティブ・プロデューサー 口垣内 徹氏 長野パラリンピック金メダリスト IPC & IOC 教育委員会委員 マセソン 美季氏
CN-133	若年層のカジュアル動画視聴 ~その実態から探る今後の動画サービスへのヒント~ いまや日常のあらゆるシーンに動画視聴への入口が広がっている。スマートフォンとともに育った若年層にとって、視聴の入口となるジャンル区分は「スポーツ」「ドラマ」「アニメ」「バラエティ」などの整然とした分類に取まらなくなった。テレビ放送や番組配信事業という視点をいったんカッコにくくってみると、若者の日常にどのような動画生態系の広がりがあるのか見えてくる。電通の独自調査とアプリの利用ログのオリジナル分析から、若年層のカジュアルな動画視聴の実態を明らかにすることで、逆に今後の動画サービス構築へのヒントを探りました。
モテレーター	株式会社電通 電通総研 フェロー 電通メディアイノベーション責任者 奥 律哉氏
パネリスト	株式会社電通 電通メディアイノベーション部長 美和 晃氏 株式会社電通 電通メディアイノベーション研究部 主任研究員 森下 真理子氏
CN-134	データで解明する! スポーツ番組の視聴の"質&価値"の最新動向!? バレーボールW杯、サッカーW杯予選、世界陸上、日本代表が大活躍しているラグビーW杯、まさにスポーツの秋ですが、本命は来年夏の東京オリンピックではないでしょうか。本セッションでは「テレビとスポーツ」をテーマに、データから、スポーツのテレビ視聴と、その価値について、テレビデータ企業2社、日本コカ・コーラ様からお話しをしていただきました。
モテレーター	株式会社インテージ コミュニケーション事業本部 テレビデータ戦略担当マネージャー 深田 航志氏
パネリスト	日本コカ・コーラ株式会社 マーケティング本部 IMC コネクションプランニング&メディア グループマネージャー 池田 哲也氏 株式会社インテージ コミュニケーション事業本部 メディアデータ部 部長 山田 護氏
11月14日(木)	
CN-141	消費行動の変化に広告主はどのように対応し、テレビ業界は何をすべきか?
モテレーター	株式会社LivePark 代表取締役社長 安藤 聖泰氏
パネリスト	花王株式会社 先端技術戦略室 マネージャー 生井 秀一氏 株式会社フジテレビジョン 総合事業局イベント事業センター ライツ事業戦略部プロデューサー 兼コンテンツ事業センターコンテンツ事業室 下川 猛氏 楽天株式会社 グローバルアドビジョン 市場ソリューション推進部 セネラルマネージャー 兼データマーケティング 執行役員 盧 誠錫氏
CN-142	GYAOとAbemaTVに聞く映像メディアの次のステップ このセッションではGYAOとAbemaTVそれぞれの事業責任者の方に登壇いただき、映像メディアの現状と今後についてディスカッションします。とくにテレビコンテンツがネット上で広告価値をどれくらい持っているか、掘り下げていきます。ネットでのテレビ番組の可能性について考えていくセッションでした。
モテレーター	スマートニュース株式会社 ディレクター 松浦 シゲキ氏
パネリスト	株式会社サイバーエージェント 常務取締役 小池 政秀氏 ヤフー株式会社 執行役員 メディアカンパニー 映像サービス統括本部長 株式会社GYAO 代表取締役社長 田中 祐介氏
CN-143	キー局攻めのメディア戦略 昨年テレビ朝日が「IoTセンター」を新設したのに続き、民放キー局各社がメディア対応の組織を新設。視聴率をベースにした放送広告収入を柱とする従来のビジネスモデルから、視聴データ、放送同時配信時代に向けた胎動が始まりました。総合メディア推進本部という新設組織を立ち上げたフジテレビ。営業局の組織を大きく再編した日本テレビと、それを受ける側の電通からキーマンに登壇していただき、ネット時代の新たなメディア戦略を伺いました。
モテレーター	株式会社ワイズ・メディア 取締役 メディアストラテジスト フラー株式会社 常勤監査役 塚本 幹夫氏
パネリスト	株式会社フジテレビジョン 総合メディア推進本部 局長 樋口 薫子氏 株式会社電通 ラジオテレビビジネスプロデュース局 動画ビジネス推進部長 植木 崇文氏 日本テレビ放送網株式会社 営業局長 黒崎 太郎氏
CN-144	ネットが盛り上がりれば何が起ころ? 番組制作とSNS活用 このセッションでは、制作者とSNSにフォーカスし、SNS戦略を自ら考える制作者や、制作者と連携をとりながらSNSを駆使する担当者にお集まりいただきました。制作作業とSNS業務をどうバランスを取るのか、あるいはどう連携すればうまくいくのかなど具体的なテーマでディスカッションしていただきました。
モテレーター	メディアコンサルタント 境 治氏
パネリスト	日本テレビ放送網株式会社 情報・制作局 ドラマプロデューサー 高明希氏 株式会社TBSテレビ 編成局宣伝部 宣伝プロデューサー 川鍋 昌彦氏 日本放送協会 制作局 第3制作ユニット ライト 勝目 卓氏
CN-145	After Hours!~テレビは本当に生き残れるか? テレビはどうなる?テレビをどうする?~ 軽食付き
モテレーター	会場コーディネーター
パネリスト	C Channel株式会社 取締役 三枝 孝臣氏 株式会社NHKグローバルメディアサービス デジタルセンター チーフ・プロデューサー 倉又 俊夫氏 株式会社テレビ東京 ホールディング本部 技術IT統括局次長 蛸川 新治郎氏 日本放送協会 2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部 副部長 神原 一光氏 株式会社LivePark チーフクリエイティブディレクター/プランナー長 岸 遼氏 株式会社ジェネレートワン 代表取締役 高瀬 敦也氏

▶会場:展示ホール7 INTER BEE CONNECTED内オープンステージ

11月14日(木)	
CN-141	消費行動の変化に広告主はどのように対応し、テレビ業界は何をすべきか?
モテレーター	株式会社LivePark 代表取締役社長 安藤 聖泰氏
パネリスト	花王株式会社 先端技術戦略室 マネージャー 生井 秀一氏 株式会社フジテレビジョン 総合事業局イベント事業センター ライツ事業戦略部プロデューサー 兼コンテンツ事業センターコンテンツ事業室 下川 猛氏 楽天株式会社 グローバルアドビジョン 市場ソリューション推進部 セネラルマネージャー 兼データマーケティング 執行役員 盧 誠錫氏
CN-142	GYAOとAbemaTVに聞く映像メディアの次のステップ このセッションではGYAOとAbemaTVそれぞれの事業責任者の方に登壇いただき、映像メディアの現状と今後についてディスカッションします。とくにテレビコンテンツがネット上で広告価値をどれくらい持っているか、掘り下げていきます。ネットでのテレビ番組の可能性について考えていくセッションでした。
モテレーター	スマートニュース株式会社 ディレクター 松浦 シゲキ氏
パネリスト	株式会社サイバーエージェント 常務取締役 小池 政秀氏 ヤフー株式会社 執行役員 メディアカンパニー 映像サービス統括本部長 株式会社GYAO 代表取締役社長 田中 祐介氏
CN-143	キー局攻めのメディア戦略 昨年テレビ朝日が「IoTセンター」を新設したのに続き、民放キー局各社がメディア対応の組織を新設。視聴率をベースにした放送広告収入を柱とする従来のビジネスモデルから、視聴データ、放送同時配信時代に向けた胎動が始まりました。総合メディア推進本部という新設組織を立ち上げたフジテレビ。営業局の組織を大きく再編した日本テレビと、それを受ける側の電通からキーマンに登壇していただき、ネット時代の新たなメディア戦略を伺いました。
モテレーター	株式会社ワイズ・メディア 取締役 メディアストラテジスト フラー株式会社 常勤監査役 塚本 幹夫氏
パネリスト	株式会社フジテレビジョン 総合メディア推進本部 局長 樋口 薫子氏 株式会社電通 ラジオテレビビジネスプロデュース局 動画ビジネス推進部長 植木 崇文氏 日本テレビ放送網株式会社 営業局長 黒崎 太郎氏
CN-144	ネットが盛り上がりれば何が起ころ? 番組制作とSNS活用 このセッションでは、制作者とSNSにフォーカスし、SNS戦略を自ら考える制作者や、制作者と連携をとりながらSNSを駆使する担当者にお集まりいただきました。制作作業とSNS業務をどうバランスを取るのか、あるいはどう連携すればうまくいくのかなど具体的なテーマでディスカッションしていただきました。
モテレーター	メディアコンサルタント 境 治氏
パネリスト	日本テレビ放送網株式会社 情報・制作局 ドラマプロデューサー 高明希氏 株式会社TBSテレビ 編成局宣伝部 宣伝プロデューサー 川鍋 昌彦氏 日本放送協会 制作局 第3制作ユニット ライト 勝目 卓氏
CN-145	After Hours!~テレビは本当に生き残れるか? テレビはどうなる?テレビをどうする?~ 軽食付き
モテレーター	会場コーディネーター
パネリスト	C Channel株式会社 取締役 三枝 孝臣氏 株式会社NHKグローバルメディアサービス デジタルセンター チーフ・プロデューサー 倉又 俊夫氏 株式会社テレビ東京 ホールディング本部 技術IT統括局次長 蛸川 新治郎氏 日本放送協会 2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部 副部長 神原 一光氏 株式会社LivePark チーフクリエイティブディレクター/プランナー長 岸 遼氏 株式会社ジェネレートワン 代表取締役 高瀬 敦也氏

11月15日(金)	
CN-151	5Gが放送ビジネスに与えるインパクト まもなく実用化する5G。「高速・大容量・低遅延」という4Gを凌駕するスペックが社会に変革をもたらすといわれています。その一方、人々の暮らしやビジネスがどう変わるのかについては必ずしも共有できていません。本セッションでは「放送に与える影響」という視点も含めて、5Gが社会にもたらすインパクトを紐解きました。
モテレーター	株式会社毎日放送 メディア戦略部長 齊藤 浩史氏
パネリスト	株式会社インフォシティ 代表取締役 5Gモバイル推進フォーラム アプリケーション委員会委員長 岩浪 剛太氏 スタイル株式会社 代表取締役 WirelessWire News 発行人 竹田 茂氏
CN-152	ローカル局の放送外ビジネス2.0 ~放送×ネット×地域のトライアングル~ 地域課題が増大する中、地域メディアの役割は一層重要になってきています。しかしローカル局の広告ビジネスは厳しさを増しており、新たな収入を得る為のアイデアの構築が急務です。放送、ネット、リアルなつながりという「三位一体」で、かつ「地域ファースト」の発想で取り組み放送外ビジネスの新たな潮流をお伝えしました。
モテレーター	日本放送協会 放送文化研究所 メディア研究部 研究主幹 村上 圭子氏
パネリスト	株式会社ビープラスト(サガテレビグループ会社) コンテンツメディアグループ 伴 俊満氏 南海放送株式会社 技術局技術戦略部 部長 兼 メディア統括局メディア広報部 二宮 以紀氏 中京テレビ放送株式会社 ビジネス推進局 インターネット事業部 北折 政樹氏
CN-153	放送コンテンツの海外展開 次の一手は配信か? 日本の放送番組は、番組販売で海外に展開され、販売先では放送と配信の双方での展開が一般的となっています。フォーマット販売など番組販売以外にもすでに多くの実績をあげています。本セッションでは、海外に詳しいお二人をお迎えし、国内では番組配信が進むなか、海外に向けての次の一手をうかがいました。
モテレーター	株式会社テレビ朝日 経営戦略局 経営戦略部 渉外担当部長 兼 インターネット・OP・テレビジョンセンター 岩田 淳氏
パネリスト	株式会社東京放送ホールディングス 上級専門職 局次長待遇 メディア企画室 兼 総合マーケティングラボ ビジネス戦略部 薄井 裕介氏 佛光大学 社会学部教授 大場 吾郎氏
CN-154	INTER BEE CONNECTED Wrap Up トークセッション~これまでの5年これからの5年~ Inter BEEの特別企画であるCONNECTEDがスタートして今年で5年(6回目)。放送を巡る環境が大きく変化する中、CONNECTEDは常に時代を先取りし、新たなサービスやチャレンジを取り上げてきました。今年のラストセッションは、CONNECTEDの3日間を企画プロデュースしてきた経験豊富なアドバイザーボードメンバーが、この5年間を振り返るとともに次の5年、放送がどう変化するかを占いました。
モテレーター	株式会社ワイズ・メディア 取締役 メディアストラテジスト フラー株式会社 常勤監査役 塚本 幹夫氏
パネリスト	株式会社LivePark 代表取締役社長 安藤 聖泰氏 株式会社毎日放送 経営戦略室 メディア戦略部長 齊藤 浩史氏 メディアコンサルタント 境 治氏 株式会社電通 ラジオテレビビジネスプロデュース局 次世代テレビビジネス統括部長 布瀬川 平氏 日本放送協会 放送文化研究所 メディア研究部 研究主幹 村上 圭子氏

INTER BEE CREATIVE

2019年のINTER BEE CREATIVE

映像制作の「クリエイティブ」に光をあてるセッションも充実の内容でお届けいたしました。
 史上初の4K制作を行った大河ドラマ「いだてん」を始め、ハリウッドからはこの夏世界的にスーパーヒットを飛ばした「ライオンキング」のクリエイターを招いて、日本発の「ハリウッド・スーパーセッション」を開催しました。
 最新の映像作りから日本のお家芸の特撮までをカバーする面白いセッションが目白押しでした。

INTER BEE CREATIVE 基調講演 ▶会場:国際会議場2階 コンベンションホールA

KN-152 日本のクリエイターよ。越境せよ!
世界に誇る日本の技術力・精神力。今の日本の映像業界に何が必要か?
 Powerd by Digicon6 Asia

対談者: INTER BEE CREATIVE フォーラム・ディレクター 結城 崇史氏
 映画監督 行定 勲氏

11月15日(金) 13:00-14:30

クリエイティブセッション ▶会場:展示ホール8 INTER BEE CREATIVE内オープンステージ

11月13日(水)

CR-132 史上初NHK4K大河ドラマ「いだてん」の技術的挑戦 ~4K大河ドラマはこうして作られた
 11:30-12:15
 日本放送協会 放送技術局制作技術センター 制作・開発推進部 高口 英史氏

CR-134 「浮世の画家 ~8Kドラマの挑戦~」
 14:00-14:45
 株式会社NHKエンタープライズ 制作本部 ドラマ番組エグゼクティブ・プロデューサー 内藤 慎介氏

CR-135 史上初NHK4K大河ドラマ「いだてん」に見るVFX最新技術紹介
 15:00-15:45
 放送局技術局 制作技術センター(番組制作技術部) 石原 渉氏

CR-136 Animal Logicの元IT部門トップが語る、近未来のシステムの姿 来るべき「データファースト」の時代に求められるものとは? (日英同時通訳付)
 16:00-16:45
 DELL EMC UDS(Unstructured Data Solutions)事業本部 メディア&エンターテインメント業界担当 事業開発マネージャ Animal Logic元IT部門長 アレックス・ティムズ氏

11月14日(木)

CR-142 アドビ ビデオ&オーディオ製品 最新アップデート情報
 11:30-12:15
 アドビ マーケティングマネージャ 田中 玲子氏

CR-143 日本の映画界、突破口を探る ~僕たち日本人クリエイターのもつ本当の底力を今こそ発掘しよう!
 13:00-13:45
 映画監督 武 正晴氏

CR-144 藤代雄一朗×林響太郎 [ディレクターの視点から見た撮影、編集、カラーグレーディング]
 14:00-14:45
 パネリスト: 映像作家・撮影監督 藤代 雄一朗氏 映像作家・撮影監督 林 響太郎氏
 モデレーター: 玄光社 [コマース・フォト]編集部 荒井 努氏

CR-145 8K/4K高画質標準評価用コンテンツ制作手法
 15:00-15:45
 株式会社キュー・テック 映像部 第一編集グループ チーフテクニカルアドバイザー/シニアカラリスト 今塚 誠氏

11月15日(金)

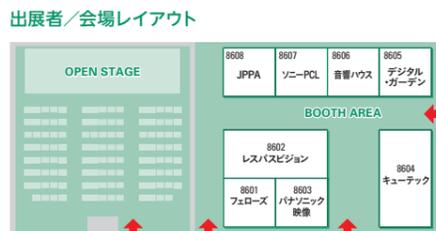
CR-151 ハリウッド・スーパーセッション ~ザ・メイキングオブライオンキング Part2~ (日英逐次通訳付)
 10:30-11:15
 MPC Film VFX Supervisor Elliot Newman氏

CR-152 HDR制作環境構築における留意点 (日英同時通訳付)
 11:30-12:15
 BBC, Chair ITU-R Working Part 6C, Chair EBU Production Strategic Programme, Lead BBC Production Standards アンディ・クエステッド氏
 株式会社IMAGICA Lab. エンターテインメント事業本部 シニアテクニカルディレクター 清野 晶宏氏

CR-153 先端映像技術への挑戦 <第4弾> ~4K放送開始からもうすぐ一年! 4K番組制作現場から(HLG編)~
 13:00-13:45
 パナソニック映像株式会社 エディター 中垣 宏規氏 パナソニック映像株式会社 カラーリスト 石黒 一哉氏
 パナソニック映像株式会社 技術顧問 竹内 明弘氏 パナソニック映像株式会社 プロデューサー 山田 敏弘氏

CR-154 デジタルガーデンが提案する次世代の映像制作の形 [One-stop Work flow]と[High-Speed Creation]
 14:00-14:45
 株式会社デジタル・ガーデン 山田 悠生氏

CR-155 山田智和 [映像作家としてのこれまでとこれから]
 15:00-15:45
 パネリスト: 映像作家・映画監督 山田 智和氏 モデレーター: 玄光社 [コマース・フォト]編集部 荒井 努氏



CR-146 ハリウッド・スーパーセッション ~ザ・メイキングオブライオンキング Part1~ (日英逐次通訳付)
 16:00-16:45
 MPC Film VFX Supervisor Elliot Newman氏

INTER BEE ((5G))

「高速大容量」「超低遅延」「同時多接続」5G で変わる新映像体験。

▶会場:展示ホール 8
 ▶出展:ソフトバンク株式会社

第5世代移動通信システム(5G)のユースケースとして期待されるメディア&エンターテインメント分野での可能性を訴求。
 5G 関連事業者と映像制作者、放送事業者、配信事業者、コンテンツホルダー等とのネットワークの場として展開しました。



INTER BEE CREATIVE MEET-UP

交流から創造がはじまる。来場者同士が繋がる、新感覚ネットワーキングエリア

Hands On Area 最新の機材を展示・体験できるコーナー。

出展者: 特定非営利活動法人アニメ特撮アーカイブ機構、株式会社映像センター、株式会社シーンス、株式会社シンク・デザイン、タスカム/ティアック株式会社

Workshop Area 動画制作から動画マーケティングまで最新動向をお届けしました。

- 11月13日(水) 10:30-12:00 「動画の効果測定(前編)」~Webマーケティングの進化から動画マーケティングの未来を展望しよう~ オルタナティブ・コンピュータ 代表 野田 取一氏/協力:株式会社フェローズ
- 13:00-14:30 「動画の効果測定(後編)」~2つの事例から正しい効果測定の方法を検討しよう~ オルタナティブ・コンピュータ 代表 野田 取一氏/協力:株式会社フェローズ
- 15:00-15:45 YouTube活用の現在と未来~「インフルエンサーインサイト」に基づくマーケティング戦略と「企業チャンネル」の可能性~ 株式会社BitStar CSO 原田 直氏
- 11月14日(木) 12:00-20:00 「Adobe Day in Inter BEE 2019-多様化する映像制最前線-」Powered by Vook
- 11月15日(金) 12:00-16:10 「VG Lab in Inter BEE by Vook ~ビデオグラファーのための研究所~」

Meet-up Hawaii Cafe / Open Lounge / Beach Stage

ハワイアンレモネードやフードを楽しめる Meet-up Hawaii Cafe や、休憩や待ち合わせなど多目的にご利用いただける Open Lounge、ハワイアンショーが開催される Beach Stage など構成された、自由な空間。FITNESSも開催しました。

INTER BEE CREATIVE MEET-UP 特別協力企業(50音順)

月刊イベントマーケティング(株式会社MICE研究所)、キッセイコムテック株式会社、Cordbook、TACHIHI BEACH、Hawaii.jp(有限会社レイランドグロウ)、株式会社花とみどり社、株式会社BitStar、株式会社フェローズ、「フォレスト・サポーターズ」運営事務局 公益社団法人国土緑化推進機構・美しい森づくり全国推進会議、Vook(株式会社アドワール)、株式会社ユーコム



INTER BEE SPORT

SPORT×TECHNOLOGY×ENTERTAINMENT スポーツ観戦は新次元へスポーツコンテンツが表現の枠を広げる

スポーツコンテンツを軸に、ライブやメディアにおいてスポーツ観戦とエンターテインメントがどのように進化し変革するのか、またそれをもたらすテクノロジーやサービスが何なのかをいち早く発信しました。



出展者/会場レイアウト



出展者プレゼンテーション ▶会場:INTER BEE SPORTプレゼンテーションステージ

講演テーマ/出展者名	11月13日(水)	11月14日(木)	11月15日(金)
■スポーツ番組 視聴体験の未来 インフォシティグループ((株)インフォシティ/(株)テクノネット/(株)ビットメディア)	13:30▶13:50	15:00▶15:20	11:00▶11:20
■Sport×JVC ・バスケットボールで北米トップ層の導入実績、日本初上陸のリアルタイム向けソリューション ・シンプルでGUIでTV中継レベルのリッチコンテンツ制作を実現するライブプロダクションシステム (株)JVCケンウッド	16:30▶16:50	11:30▶11:50	14:30▶14:50
■ライブ収録とクラウド上でのコンテンツ活用 (株)トラフィック・シム	13:00▶13:20	14:30▶14:50	10:30▶10:50
■スポーツ向けハイスピードBOXカメラ QDCAM メディアエッジ(株)	14:00▶14:20	15:30▶15:50	11:30▶11:50

ライブイベント

世界の頂点に立つダブルダッチの現役チャンピオンがパフォーマンスを披露!

二本のロープを巧みに操り、迫力あるアクロバットからダンスまでを織りなすパフォーマンスで世界大会3連覇という偉業を果たした「REGSTYLE」がパフォーマンスを披露しました。

名門 東洋大学アイスホッケー部が巧みなハンドリングとプレゼンテーションを披露!

日本一のタイトルを10回獲得している名門の東洋大学アイスホッケー部の鈴木貴人監督と山口和良コーチ、所正樹選手、石橋拓実選手が卓越した技術と知識を披露し、アイスホッケーというスポーツをPRしました。

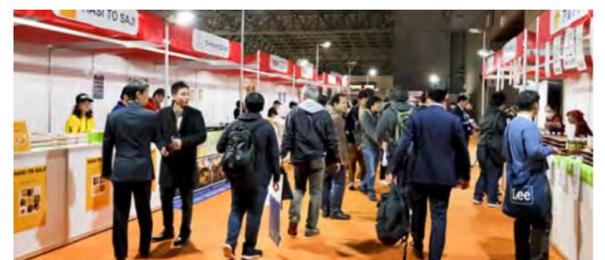
INTER BEE RŪKE-BENTO Grand prix

▶会場:展示ホール5

今年も大盛況のロケ弁グランプリ 協力:ロケーションジャパン/ロケなび!

現場のパワーを引き出す陰の主役・ロケ弁!
 Inter BEEの名物イベント・ロケ弁グランプリが開催。
 新たな店も加わり、厳選12店舗がバラエティ豊かに競演しました。

- 【人気投票結果/参加店】
 ◆グランプリ:ブーケットオリエンタル ◆準グランプリ:ドルフィン ◆第3位:ラジュール東京
 その他の参加店:キッチンひまわり、銀座WORLD DINER、ロケ弁当 Hungry、SUNDAY、キッチン・プリランテ、HASI TO SAJI、アジアン食堂アルト、yokohama uotoki、香菜屋



Result: Publication and Promotion

■ 広報活動(リリース配信実績)

- *出展募集開始告知リリース(2/28)
- *開催概要決定・入場事前登録開始告知リリース(9/26)
- *EXPERIENCE 概要決定告知リリース(10/3)
- *CONNECTED 概要決定告知リリース(10/29)
- *IGNITION 概要決定告知リリース(10/31)
- *CREATIVE 概要決定告知リリース(11/6)
- *IP PAVILION 概要決定告知リリース(11/8)
- *開幕告知リリース(11/12)
- *プレスルーム設置(11/13~15)
- *閉幕リリース(11/15)

■ プレス登録者数 **342**名

■ Inter BEE 2019 関連記事掲載WEB NEWS (一部) ※順不同

YAHOO! ニュース	AXIS Web Magazine
PRONews	CAPA Camera Web
The SANKEI NEWS	CGWORLD.jp
@Press	イベントマーケティング
ASCII.jp	Eventr.jp
AVWatch	展示会とMICE
Internet Watch	feedclassニュース
デジカメWatch	ITメディアニュース
PCWatch	livedoor NEWS

■ Inter BEE 2019 関連記事掲載紙誌 (一部) ※順不同

日経産業新聞	見本市展示会通信
朝日新聞	TVTechnology
日刊工業新聞	家電流通新聞
FujiSankei Business i.	ビデオ通信
日刊 電波新聞	NEW MEDIA
映像新聞	月刊 放送技術
電波タイムズ	EVENT MARKETING
日刊 放送ジャーナル	FILM & DIGITAL TIMES
月刊 放送ジャーナル	B-maga
VIDEO JOURnAL	月刊「フルデジタル・イノベーション」(FDI)
APB(Asia-Pacific Broadcasting)	月刊 ビジネスサミット

■ 広告掲載(国内) ※WEBバナー含む

映像新聞	サウンド&レコーディング・マガジン
ビデオジャーナル	SOUND DESIGNER
月刊 放送ジャーナル	民放
月刊「フルデジタル・イノベーション」(FDI)	電波技術協会報(FORN)
PROSOUND	日経産業新聞
月刊 ニューメディア	日刊 電波新聞
ロケーションジャパン	電波タイムズ
月刊 放送技術	PRN Magazine
Stage Sound Journal	ビデオ通信
月刊「CGWORLD + digital video」	B-maga(サテマガ・ビー・アイ)
月刊「ビデオサロン」	特ラ機構レポート
映画テレビ技術	

■ 広告掲載(海外) ※WEBバナー含む

APB(Asia Pacific Broadcasting)	IBC DAILY NEWS
NAB DAILY NEWS	ABU(Technical Review)
KOBA Guide Book	IABM Journal
Prolight + Sound	

■ Inter BEE 2019 関連記事掲載数(紙誌のみ)

Inter BEE 2019	
開催前	153件
開催中	26件
開催後	231件
合計	410件

※2020年2月4日現在/事務局調べ

朝日新聞DIGITAL	Stereo Sound ONLINE
NEWS SHOOTER	TV Technology
ニコニコニュース	ビデオSALON.Web
PANORA VIRTUAL REALITY JAPAN	VRonWEBMEDIA
PHILE WEB	Developers.IO
PR Times	イーフレント
SankeiBiz(サンケイビズ)	アドバンスト・メディア
Screens	GASKET
Sports Video Group	ROCK ON PRO

月刊 ネット販売	ロケーションジャパン
千葉日報	Stage Sound Journal
伊勢新聞	月刊「CGWORLD + digital video」
函館新聞	映画テレビ技術
電線新聞	サウンド&レコーディング・マガジン
週刊企業と広告	SOUND DESIGNER
PRN Magazine	民放
PRONews	電波技術協会報(FORN)
警備保障タイムズ	ビデオジャーナル
科学新聞	月刊 ニューメディア
PROSOUND	月刊「ビデオサロン」

■ Inter BEE Official Mail Magazine

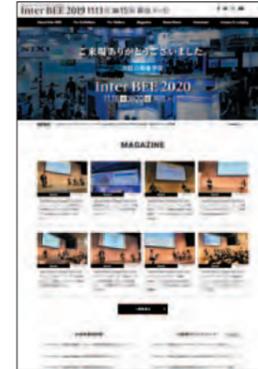
経年的に蓄積している来場者データベースに向けて最新情報を配信。 約 **78,000** 件 × **27** 回配信

■ Inter BEE 公式 Website

◆ サイト訪問数 (2019年1月~11月): **537,818** セッション

Inter BEE Online Magazineは、Inter BEE出展者情報をもとより、関連イベントや業界最新ニュースなどの話題性の高い情報を、年間を通じて発信する情報メディアサイトです。サイト訪問者は年々増加しています。

Online Magazine **294**本
記事掲載数:
会場取材ビデオオンデマンド: **123**本 (Inter BEE TV)



■ 公式Facebook

◆ フォロワー数: **5,276** 件 (前年比 **110%**)

◆ 投稿数: **306** 件 (ストーリーズ含む)

◆ 年間リーチ数: **2,134,277** ユーザ

◆ 年間動画再生数: **57,362** ユーザ



■ 公式Twitter

◆ フォロワー数: **2,619** 件 (前年比 **172%**)

◆ ツイート数: **347** 件

◆ 年間インプレッション: **2,426,097** 件



■ 公式Instagram

◆ フォロワー数: **828** 件 (前年比 **179%**)

◆ 投稿数: **193** 件 (ストーリーズ含む)

■ #interbee2019
◆ 投稿数: **948** 件 (Instagramのみ/外部投稿含む)



■ メディアパートナー

関連業界紙誌にはメディアパートナーとしてInter BEEをサポートいただき、多くの出展者の記事を掲載いただいています。



Result: Visitor Profile

日別登録来場者数

	11/13(水)	11/14(木)	11/15(金)	合計
国内登録来場者数	13,719	13,086	12,549	39,354
海外登録来場者数	536	350	135	1,021
合計	14,255	13,436	12,684	40,375

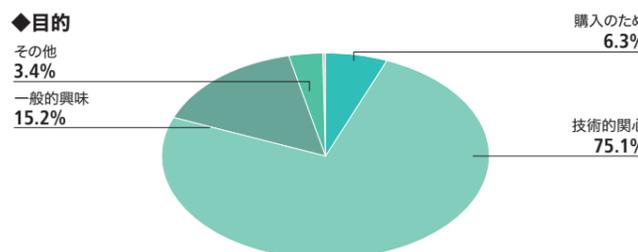
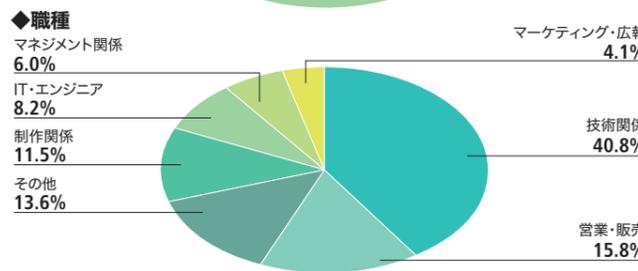
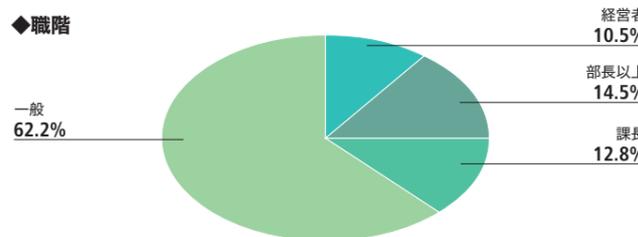
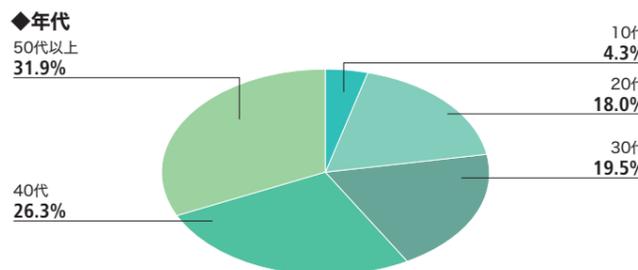
登録来場者数の内訳

エリア	国・地域数/来場者数	国・地域別の来場者数
日本国内	1カ国/39,354名	日本 39,354
アジア地域	15カ国・地域/731名	韓国 191、中国 216、台湾 94 インドネシア 43、香港 52、タイ 35 シンガポール 37、フィリピン 9、ベトナム 11 インド 19、マレーシア 11、マカオ 5 ミャンマー 3、バングラデシュ 3 スリランカ 2
北米地域	3カ国・地域/86名	アメリカ合衆国 68、カナダ 17、キューバ 1
中南米	5カ国/8名	ブラジル 3、メキシコ 1、アルゼンチン 1 コロンビア 2、パナマ 1
ヨーロッパ地域	18カ国・地域/92名	イギリス 27、イタリア 12、ドイツ 6 スペイン 2、ウクライナ 11、フランス 11 ベルギー 1、オランダ 4、ハンガリー 1 チェコ 1、ロシア 7、ポルトガル 1 ノルウェー 1、ポーランド 2、フィンランド 2 ラトビア 1、オーストリア 1、クロアチア 1
中近東・アフリカ	5カ国・地域/19名	アラブ首長国連邦 2、カタール 1 イスラエル 8、サウジアラビア 2、トルコ 6
南大洋州	3カ国/7名	オーストラリア 4、ニュージーランド 1 グアム 2
不明		78
合計	50カ国・地域	40,375名

登録来場者数: **40,375**名



来場者の属性



◆業種

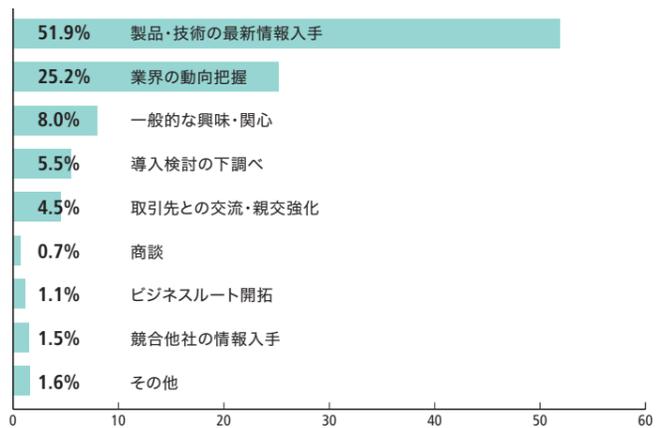
機器メーカー	16.6%	通信事業者	3.3%
民間放送テレビ局	9.5%	インターネット関連	3.1%
その他ユーザ	7.7%	舞台・演出・美術・照明関連	2.4%
学生	7.2%	CATV関係	2.0%
ポストプロダクション	6.8%	官公庁・団体	1.7%
映画・映像制作会社	6.5%	施設・店舗関係	1.7%
その他ゲスト	6.4%	コンテンツ配信事業者	1.4%
商社	5.7%	広告代理店	1.3%
コンテンツ制作関連	4.0%	民間放送ラジオ局	0.8%
PA関係	3.8%	ビデオソフト制作会社	0.6%
プロダクション	3.6%	レコード制作会社	0.4%
NHK	3.5%		

◆関心(複数回答)

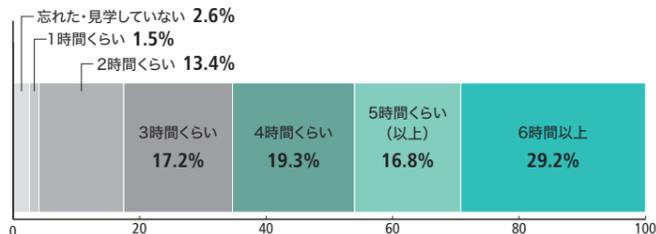
映像機器全般	55.6%	マイクロホン	11.0%
オーディオ機器全般	33.9%	VTR・メモリーカード・光ディスク	5.9%
カメラ	25.7%	送出システム	9.0%
編集・制作装置	18.3%	送信システム	8.8%
VR、AR、3D	20.5%	マルチメディアシステム	9.1%
映像モニタ	17.0%	各種特機・周辺製品	6.0%
デジタルコンテンツ	17.1%	照明機器	10.1%
スピーカ	13.6%	デジタルシネマ	5.9%
パブリックビューイング、プロジェクトンマッピング、デジタルサイネージ	10.3%	測定機器	6.4%
サーバ・ストレージ	9.7%	OTT、SNS、セカンドスクリーン関連	4.5%
ソフトウェア	12.9%	制作管理システム	5.4%
ミキサ	11.5%	美術・舞台演出関連	5.5%
中継システム	11.6%	電源装置	4.0%
クラウドサービス関連	13.8%	その他	2.2%

来場者アンケート

◆『Inter BEE 2019』にご来場された目的を教えてください。(複数回答)

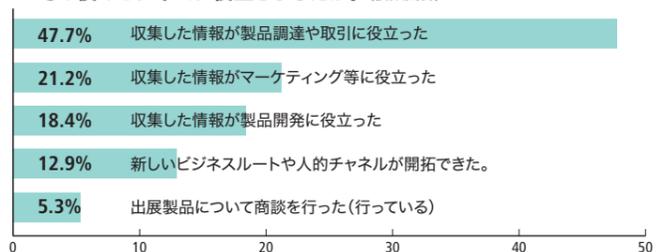


◆『Inter BEE 2019』で過ごされた時間を教えてください。

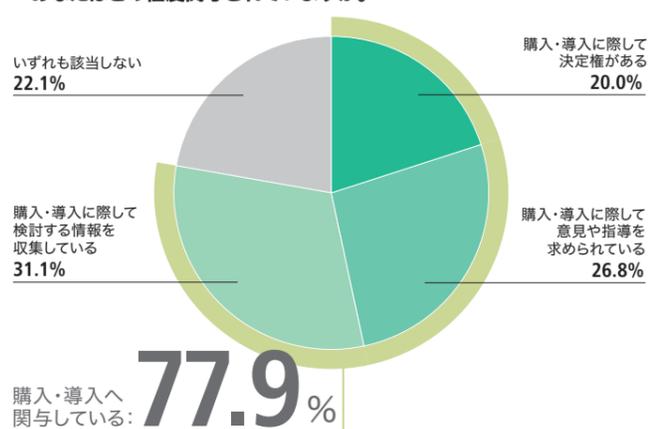


65.3%の人が**4時間以上**滞在

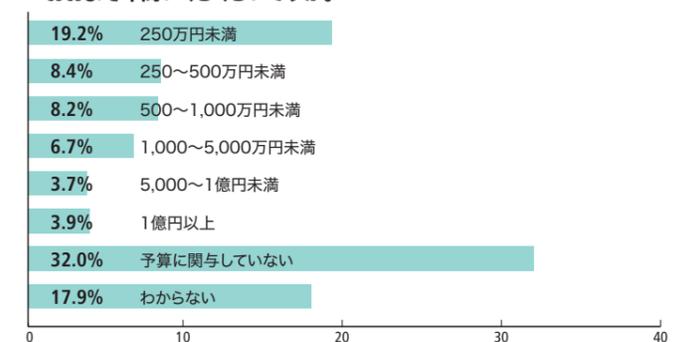
◆『Inter BEE 2019』を見学して、その後のビジネスに役立ちましたか。(複数回答)



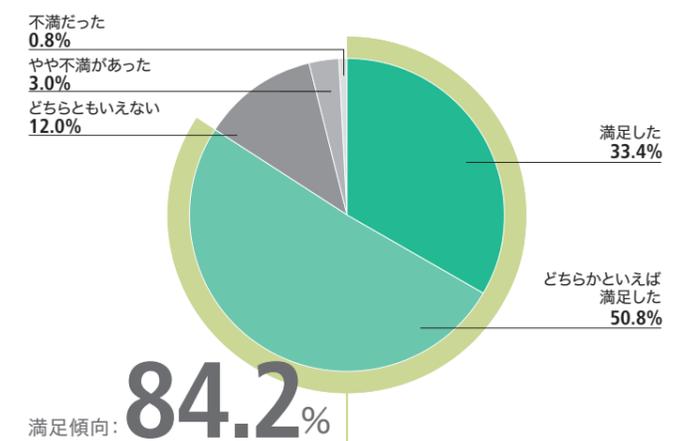
◆御社での製品・サービスの購入・導入にあたって、あなたはどの程度関与されていますか。



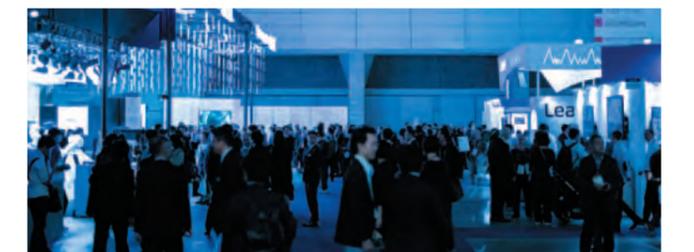
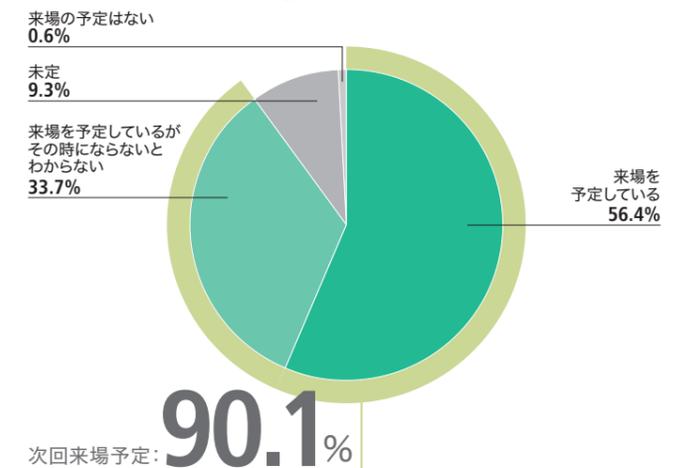
◆あなたが関与する製品・サービスの購入・導入に対する予算は、おおよそ年間いくらくらいですか。



◆Inter BEE 2019 全体を通して、どの程度満足しましたか。



◆次回の『Inter BEE 2020』にご来場いただけますか。



Result: Exhibitor Profile

■ 出展者数

展示部門	出展者数	小間数
プロオーディオ	335社	416小間
映像表現/プロライティング	52社	95小間
映像制作/放送関連機材	635社	1,427小間
ICT/クロスメディア	136社	187小間
合計	1,158社	2,125小間

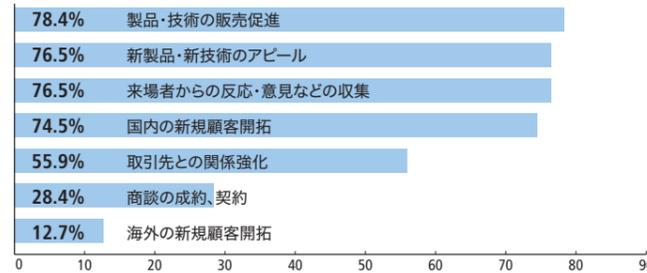
■ 登録出展者数の内訳

エリア	国・地域数/出展者数	国・地域別の出展者数
日本国内	1カ国/526社	日本 526
アジア地域	7カ国・地域/130社	中国 67、韓国 26、台湾 25 香港 9、シンガポール 1、インド 1、ベトナム 1
北中南米地域	3カ国・地域/212社	アメリカ合衆国 197、カナダ 14、ブラジル 1
大洋州・中東・アフリカ	3カ国・地域/24社	オーストラリア 12、イスラエル 11 ニュージーランド 1
ヨーロッパ地域	24カ国・地域/266社	イギリス 73、ドイツ 66、フランス 22、スウェーデン 13 オランダ 12、イタリア 11、スペイン 11、ベルギー 10 スイス 9、オーストリア 8、デンマーク 6、ノルウェー 6 ハンガリー 3、ブルガリア 2、フィンランド 2、トルコ 2 チェコ 2、クロアチア 2、ラトビア 1、ポルトガル 1 リヒテンシュタイン 1、スロバキア 1 ギリシャ 1、ルーマニア 1
	38カ国・地域	1,158社/団体

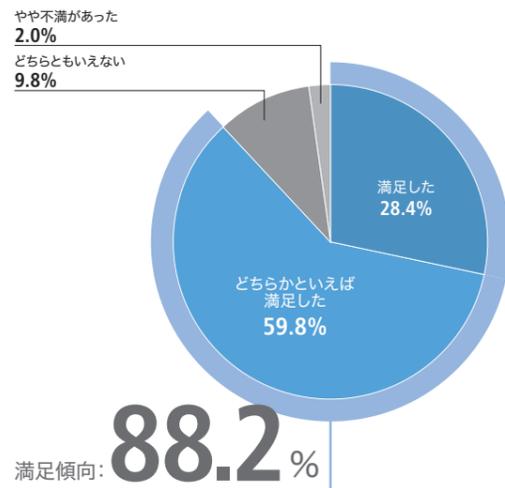
出展国・地域数: **38**カ国・地域
 海外出展者数: **632**社

■ 出展者アンケート

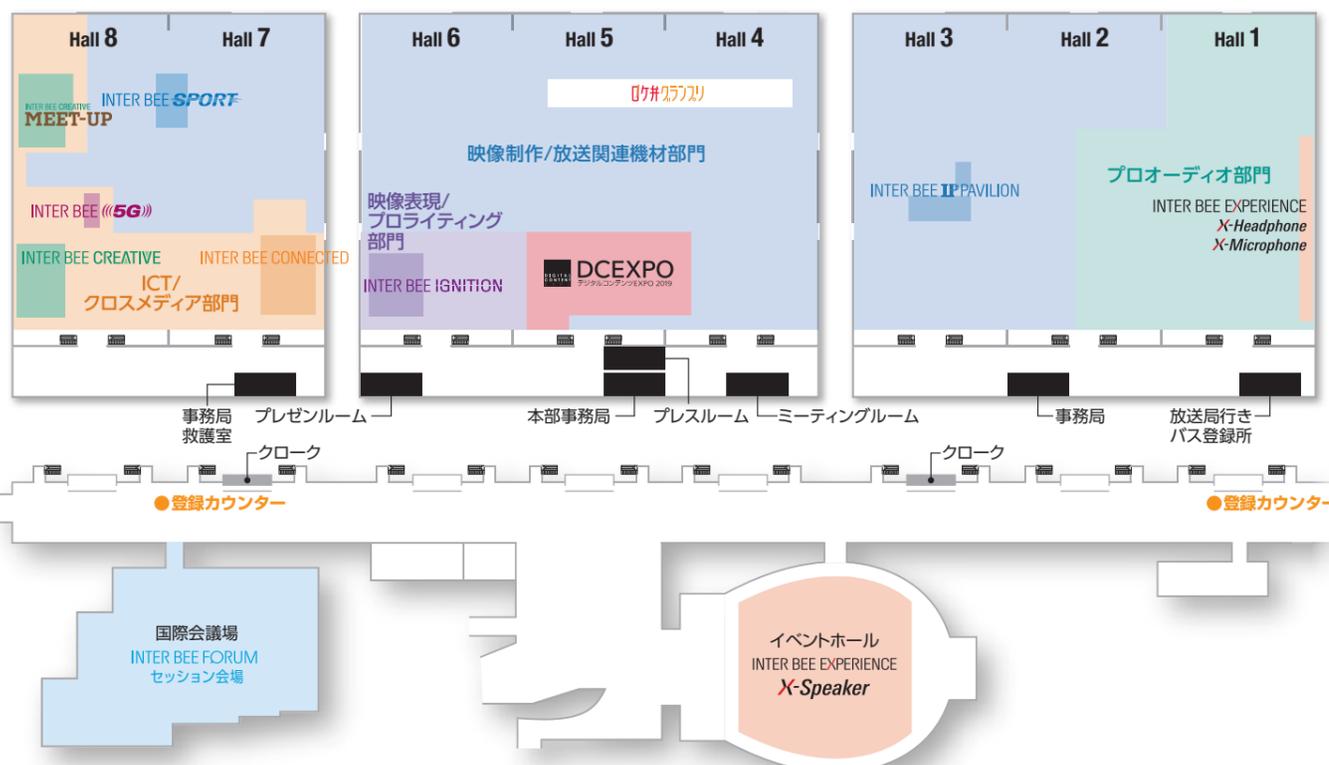
◆ 出展した目的【複数回答】



◆ 今回の目的達成の満足度



■ 会場構成



Broadmedia & Entertainment Inter BEE 2019

開催概要

- 名 称 -----
Inter BEE 2019
(第55回)2019年国際放送機器展
International Broadcast Equipment Exhibition 2019
- 会 期 -----
11月13日(水) 10:00 ~ 17:30 (※10:00-19:30)
11月14日(木) 10:00 ~ 17:30 (※10:00-19:50)
11月15日(金) 10:00 ~ 17:00 (※10:00-17:10)
※印はイベントホールでのX-Speaker(スピーカー体験)実施時間
- 会 場 -----
幕張メッセ
展示ホール1 ~ 8・国際会議場・イベントホール
- 入 場 -----
無料(全来場者登録入場制)
- 主 催 -----
一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)
- 後 援 -----
総務省、経済産業省 (建制順)
NHK
一般社団法人日本民間放送連盟 (JBA)
一般社団法人電波産業会 (ARIB)
一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (DCAJ)
一般社団法人放送サービス高度化推進協会 (A-PAB) (順不同)

- 協 力 -----
IPDCフォーラム、一般社団法人IPTVフォーラム、一般社団法人衛星放送協会、特定非営利活動法人映像産業振興機構、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人映像配信高度化機構、公益社団法人映像文化製作者連盟、一般社団法人カメラ映像機器工業会、公益社団法人劇場演出空間技術協会、一般財団法人最先端表現技術利用推進協会、3Dコンソーシアム、全国舞台テレビ照明事業協同組合、先進映像協会 日本部会、超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム、一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム、一般社団法人デジタルメディア協会、一般社団法人電波技術協会、一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構、一般社団法人日本アド・コンテンツ制作協会、協同組合日本映画撮影監督協会、一般社団法人日本映画テレビ技術協会、協同組合日本映画テレビ照明協会、一般社団法人日本オーディオ協会、一般社団法人日本音楽スタジオ協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、一般社団法人日本CATV技術協会、公益社団法人日本照明家協会、一般社団法人日本動画協会、一般社団法人日本パブリックビューイング協会、NPO法人日本ビデオコミュニケーション協会、公益社団法人日本舞台音響家協会、日本舞台音響事業協同組合、一般社団法人日本ポストプロダクション協会、一般財団法人プロジェクトマッピング協会、マルチスクリーン型放送研究会、一般社団法人モバイルブロードバンド協会
- グローバルパートナー -----
- 運 営 -----
一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル5階
電話: (03) 6212-5231

